

に曲りなさい。

若し左が低い肩であるなら、此の運動を逆になさい。

二、頭の上に高く腕をあげて、身體をそろくと前方に曲げて、膝をまげずに床にふれる様に試なさい。それから徐々と直立の姿勢に返りなさい。

猫脊に打ち勝つこと

腕を前方に組みなされるな。

両手を一緒に脊の後ろにもつてくる運動はどれもよい。

両肘を急に後に引きなさい。

重いものを各々の手に持つて、貴女の後に身體から離して持ちなさい。

頭を脊骨の上に平均させ、胸を張り、臀の部分をつき出し、踵の上でなく母指の踵の上に體重をのせて、正しい姿勢に身體を保ちなさい。

腰の筋肉を強くする運動は眞直の姿勢を保つことを助け、そして猫脊に打ち勝つ様になるものです。

弱い腰を強くすること

一、相當な重さのものを両手にもちなさい。それを貴女の前の床の上におきなさい。足を七寸廣げて立ちなさい。そして三度緩りと深呼吸をなさい。腰をまげて、その重いものを両手にとつて、漸次に眞直になつて両手が横側で容易に下るまで身體を上げなさい。徐々と前方にまがつて、再びその重いものを床の上に置きなさい、五度繰返しなさい。

二、両手を頭の後に握つて、そろくと前方へ頭が腰と同じ高さになるまで曲りなさい。十を數へてそれから直立の姿勢に直になりなさい、之を繰返しなさい。  
三、腰の處で後方前方側に曲げなさい。



四、貴女の右の腕を頭の上を越して左の耳に達するまでにおきなさい。顔を高くしなさい。室をまはりながらそろそろ深く呼吸しなさい。他の腕を以て繰返しなさい。貴女の歩行の長さを漸次に増しなさい。

- 五、テニスをすることは腰の兩測によい運動であります。
- 六、重いものを先づ肩の上ののせて運び、それから他の肩で運びなさい。
- 七、爪先で走りなさい。
- 八、片足で飛びなさい。

胸を強くし發達させること

- 一、真直な姿勢を保ちなさい。
- 二、肘を曲げないで腕を前方、上方、後方に上下しなさい。
- 三、床の上に横たはつて、両手が床につくまで頭の上に腕を伸ばしなさい。深く氣息を

吸ひ入れてそれを保ちなさい。今度は貴女がとぐだけ高く頭の上に腕を持ってきなさい、そして肘を曲げなざるな。休んで三度繰り返しなさい。

四、出来るだけ高く顔を上げなさい。出来るだけ高く兩側に兩腕を上げなさい。深く呼吸して空氣を肺に保ちなさい。さて空氣を出さないで、肘を曲げずに、手を確りと兩側に下げなさい。これを反復しなさい。顔は十分上に保ちなさい。

下腹部の筋肉を強くすること

- 一、顔を高くして立ちなさい。
- 二、そろそろと深く呼吸しなさい。
- 三、右の膝を右の足が床から約一尺離れるまで上げなさい。
- 四、左の足で少し飛んでそれを床から急にあげなさい、それと同時に右の爪先と蹠(踵ではありませぬ)とを床につけなさい。
- 五、右の足で飛んで左を下しなさい。五回反復しなさい。



- 六、腕を後に組みなさい。顎を上げなさい。徐々と大そう深く呼吸しなさい。膝を曲げなさるな。五つ數へる間貴女の左の足を前方に遠く差し出しなさい。
- 七、それを下して右の足を同じ様に上げなさい。四回繰返しなさい。此の運動をしてゐる間は兩肩を十分後に低く保ちなさい。爪先は下げて外向けなさい。
- 八、仰向けに臥なさい。足は下につけたまゝ上體だけ起きなさい。徐々と後に臥なさい。そして三回反復しなさい。
- 九、足を高くあげて疍の強い馬の様に走りなさい。
- 十、顎を高く、手を腰にあて、兩臂を張つて立ちなさい。徐々と深く呼吸しなさい。左足を右足の前七寸の處に差出しなさい。頭を出来るだけ遠く後へ徐々と傾けなさい。五つ數へる間其儘にして置きなさい。眞直になりなさい。五回反復しなさい。
- 十一、とゞくことの出来るだけ高く、そして約二尺の間隔を以て、臂は眞直にして兩手を前面の壁におきなさい。貴方が天井と面を向き合はせるまで顎をあげて、それを

續けておきなさい。大深呼吸をしてそれを保ちなさい。今度は肘をまげて、胴體と脚は常に眞直にして、胸が壁に觸れるまで身體を徐々と前方にやりなさい。再び直立となるまで押し返しなさい。踵を床から離し左り手を壁からはなしたり、眼を頭の眞上の天井から離してはいけません。五回反復しなさい。

十二、床の上に臥て、腕を手が床に觸れるまで頭の上に伸しなさい。拳を固めなさい。深呼吸をしてそれを保ちなさい。今度は拳を握つたまゝ腕をそろく上げて、それを兩側にもつてきて下しなさい。同時に頭を床から上げなさい。腕を上げてそれを頭の上方に同時に伸しなさい。頭は又床に下しなさい。そして徐々と氣息を呼きなさい。

變位した器官を正常の位置に還すことを容易にすること

- 一、滑々した固い表面に仰向けに横たはりなさい、兩足を出来るだけ身體に向つて縮



めなさい。今度は身體の下の部分の部分を十分に足と肩で支へられるまで上げなさい。疲労しないで出来るだけ長く此の姿勢を保ちなさい。徐々と元の姿勢に下げなさい。四五分間休みなさい。反復しなさい。體力に應じて二十分か三十分繼續しなさい。

二、顔を下向けて横はりなさい、身體を爪先と肘で支へてお臀を出来るだけ高くあげなさい。

三、頭を真先に顔を下向けて、頭が床の上について、脚は寢臺の上に残るまで、寢臺から滑り落ちなさい。腕を肘まで床につけなさい。此の姿勢に疲れた時床に滑り落ち仰向に換へつて腰に繃帯をしなさい。

### 第二十四章 娛

### 樂

#### 散 步

總ての運動は平地を散歩することです。へ身體を壓縮する着物を着てゐては問題であること云ふことを絶えず心に持てゐるがよいのです。そして運動は筋肉發達の理法でありますから、爲すべき唯一の安全な事は總ての筋肉が自由な制肘されない運動をする様に着物を着ることです。有益な散歩は或る愉快な動機を以て戶外でなされるべく、或程度の力を以てなされるべきであります。散歩の長さは少女の力に比例すべきであります——最初は短かく、力が増すに従つて長くすべきであります。直立の姿勢は保たるべく、散歩は疲労するまで延ばされてはなりません。

書物を抱へて友達と話に餘念なく徐々と學校から歸るのは、運動に對する散歩の要求を充さないでせう。それは呼吸力に影響せず、肺の深さや四肢の力を發達させませ



## ランニング

此は着物が適當であるならば稱揚すべき運動であります。長いスカートは邪魔であります。爪先でのランニングは脚の腓を發育させます。

敏捷なる運動は胸を擴げる深い呼吸を起します。猛烈であり或は長く繼續されるればそれはあまりに肺と心臓に火急の要求をして有害であるかも知れません。醫師の診察は心臓や肺の弱い人々にとつては一番安全であります。

## 騎乗

乗馬は活潑な運動であつて、若し婦人が習慣によつて強いて執らねばならぬ例の窮屈な姿勢がなかつたら特に有益でありませう。それは脊骨の側彎曲や弱い腰又は脱垂内部器官の傾向をもつてゐる人には勧められません。そんな少女は適當な注意によつて乗馬を試みる前によりよき身體の状態を作るべきであります。兩側の一對の筋肉の

運動を觀察する機會を有つ醫師等が乗馬の爲めに起ると云ふ彎曲をなくするためには馬のどちら側にもものることを覺える様にハーヴェは勧めてゐます。それが眞實あるなら、何故男子のやうに馬を股いで乗るといふ氣の利いた流行を採用しませんか？私はそんな風に騎乗してゐる若い婦人を先日見ましたが、その光景は婦人鞍に強いられた曲つた姿勢よりも遙に氣持よく見えました。乗馬は猫脊を生じやすく、筋肉の最大の緊張は脊中にありますから、弱い腰には助にならないと醫師等も亦主張してゐます。

## スケートニング

スケートは立派な運動であります。それは循環と排泄を速にし、消化を助け、軀幹四肢の大多數の筋肉を運動させ、踝と神経を強くします。弊害は着物を着るとききの悪い習慣、面白いために度を過す傾向、熱くなつたとき休息するために不注意に腰掛ける事によつて、或は烈しい運動によつて温められた後馬車に乗つて還る事によつて風邪を引く危険にあります。十分の判斷力を有ち適當の着物を着てゐる、少女は此



面白い戶外遊戯によつて益せられるべきであります。

スケート季節の始頃は極めて徐々と始むるがよい。若し内部の器官が脱垂してゐるなら爲てはなりません。

### 漕艇

漕艇は上背部と肩を發達させる運動であります、それ故に胸の前の筋肉を働かす運動によつて中和される必要があります。

### 自轉車乘

自轉車乘の危険は主として判斷の缺乏から起ります。乗り過ぎるといふ誘惑は大へん大きくて弊害は體力が許すよりもつと長く遠く早く乗らうと試みるときに起ります。着物は全部完全な運動の自由を與へる様に整へらるべく、スカートは機械の危険な部分を離れる位短かく、その作りと高さは個人に適合すべく、少女は適當に腰掛けて會陰に壓迫が加はらない様に體重を按排することを教へられるべきであります。直

腸や其他の局部的苦惱は鞍にのせた全重量の壓迫によつて起ります。

姿勢は絶対に直立ではいけません。併し體重がハンドルと踏子と鞍とに分配されることの出来るやうに、軽く前方によりかゝるべきです。此の軽く傾いた姿勢は又内部器官の適當な調和した關係を保ちますから。腸は下の骨盤の器官を壓迫しません。

若し少女が適當に自轉車に腰かけ、體重を分配し、會陰でなく大きな臀の筋肉に坐り一時にとる運動量を判斷することを教へられたら、普通健康状態の少女は利益せられないと云ふ理由はありません。

或る少女は乗つてはならないと云ふ特別の理由があるかもしれませぬ。そして此等のことは醫師によつて決定されるべきことです。

### テニス

此は非常な活動を要求する遊戯であります。従つて特別に運動の自由を要します。着物の總ての壓縮は特別に有害であります。



本質的に片側の運動でありますから、若し無暗に耽けるとすれば特別に脊骨に有害な結果を生ずるかも知れないと或人は主張して居ます。

游泳

游泳は價值ある運動であるのみならず、實に不斷の船旅行の今の時代では生命の安全に助になります。それで少女等が習つてならぬと云ふ理由はありません。彼等の始めかたが若ければ若い程益々容易に敏捷に上手になります。月經のとき或は食後直に此の運動に耽るのは良くありません。

跳躍

それは過度にすることが出来ると云ふ事實からと、飛ぶことは少女に有害であるとの一般の觀念から、此の種の運動に對してある偏見があります。

若し彼等が適當の着物を着て、筋肉が漸次に發達して居り、分量に關して十分常識を用ふるならば、跳躍には特に危険はありません。脚、脊、腹部及び頭の如き色々の

筋肉を強くするために立派に採用されます。それは膝と足の弓状を強くしますから、板足に打ち勝つ傾向があります。それは弱い肺を強くし、循環と排泄を増大し、消化を盛んにして、若し戸外で行はるれば最も完全な運動の種類の一つであります。勿論骨盤内器官が月經的充血で重い時はそれは勧められないことを示します。

舞蹈

舞蹈は舞蹈者だけ考ふれば愉快な有益な運動であります。それは美容と筋力とを發育させ、循環と排泄を増し、律動的で愉快であります。人はそれが無條件に奨められることを望みます。併し私達が遅い時間、熱せられた室、男女の區別、なき賓客、遅い不健康な晚餐、不適當な衣服、風邪を引く危険、ワルツ舞蹈の禮節なき自由、それから屢起る結果の弊害を考へるとき、問題となるべき随伴物にそれ程とりまかれてゐる運動をすゝめるのは賢くない様に思はれませう。舞蹈に興味を有つて來る若い教會員はすぐに教會の仕事に對するすべての興味を失ふと認められてゐます。



舞踏が日中に、戶外でよく知られた家庭の友や仲間の間で、適當な衣服を着て、ワルツ舞踏をせずに行はれるならば、勧めることが多くして咎めることは少しかないでせう。

## 西洋カルタ

此種の娛樂のために云ふことは少しありません。それには身體の運動は含んでいません。そして多くの人がその日の間せねばならぬ窮屈な姿勢をつとけます。

それは確に享樂のもつと高尚な形式のものに何も貢献しません。セント、ポールが避けらるべき事の中に列擧してゐる競争心を刺戟し、博奕をうつ低級の社會の随伴物であります。そして私達はカルタの一組だけなら悪くないと許容せねばなりません。それは道德と正義の最良の利益に最も有害であることが出来、又屢有害でありました。

自身の智的及び道德的能力を尊敬する若い婦人は、他人の上に瞬間的成功を勝得て流血に於て頂點に達するが如き無慙な感情(それは激情かもしれない)を起す様な手で巧に扱ふカードに、あまり引力を見出さないでせう。

## 劇場行き

私達が生きだ役者と聽える言葉を以てする人間生活の繪の如き演劇を見て樂しむのは自然であります。そして之を承知して多くの良い人達は其舞臺が純潔にされ道德の教師となる様にと希望して來ました。確に價値ある人生の教訓は最も強く此の具體的形式に表はされ、かくて不思議な力を以て若い經驗のない人に訴へるかもしれない。併しそれがさう使用される筈であつたものはさうで有ると保證しないし、觀察はそれがさうで無いと云ふことを私達に示します。

近代の芝居はそれが實際となる場合には私達が咎むる様な人生の局面の描寫に主として關係してゐまして、舞臺の教訓力は惡事の場合の教訓となります。それはその暗示的な點に於て若い無經驗な人達には效能があります。



女優の衣裳は、屢、慎みがなく、かゝる婦人の多くは品性に於て道德的でありませぬ。すべての男優を不道德であると網羅的斷言を以て責めるのは適當では無いでせう。併し總ての人は誘惑が大きくして悪行に導く勢力に抵抗するに大きな道德の力が必要であるとは認するでせう。

此の問題をよく考へて、少女は若し彼女が劇場の常客でないならば、永久の損失者でないだらうと云ふことを安全に決定してよいのであります。心を總ての罪過の光景から、殊にその光景が寶石、絹布、音楽、舞踏や生けるが如き描寫の魔力によつて人心を引きつける様に仕組れてゐるならば、それ等から純潔に汚れぬ様に保つ方が安全であります。

### 第三篇 愛、遺傳、婚約

#### 第二十五章

#### 愛

私達の研究に於て最初に一般の生理を習つてそれから特別の生理を習ひました、それで精神倫理界に於て同じ研究をつゞけるとときには私達の他人に對する一般の關係を習つて次に特別の關係を習ひます。私達は身體、精神、靈魂を教養します。何故なれば私達自身の利益のために自身を發達させるのは私達の義務であります。併し他人に關する私達の責任のために私達の總の力を教養するものも亦私達の義務であります。此の責任を私は「愛」の一語に包括させよう。

愛とは何でありませうか？ 愛の觀念は老若すべての人の思想の大部分を占めてゐます。そしてそれは人によつて大へん異つた意味をもつてせう。或人にとつてはそれは



或る人のことを思ふことか又は實際その人の面前に居ることによつて起る單に愉快な感情を意味する許りであります。他の人にとつてはそれは或る人の幸福繁榮を増進させるために嗜好快樂を犠牲にする好機會を意味してゐます。

愛として世間に通用してゐるのは主として自我の愛であります。男が女を愛するのは女が男の美の感情を満足させ、女が目前に居ることは衝動と大歡喜とを起し女は男の幸福と慰安に貢獻するからであります。即ち男は女によつて彼自身を愛します。女が男を愛するのは男が女を保護し、贅澤を以て女をとりまき、男が眼前に居ることは女に衝動と大歡喜とをもたらすからであります。即ち女は男によつて彼女自身を愛します。此は利己の粹なるものではありませんか？ 外の場合に於て男は彼の熱誠を十分現はすことの出来ない程にやさしく女を愛します。若し彼女の安寧が彼の不在を要求するならば彼は悦んで彼女の社交界の愉快の外に辭し去ります。若し彼女の慰安が彼の間斷なき勞役を要求するならば彼女のための勞働に晝の時間は愚か夜さへも與へま

す。彼の唯一の希望は彼女の慾望を聽いてそれを充す事でありませぬ。彼は彼女を満足させるために彼自身と彼の希望とを念頭より去ります。彼は彼女の欲しい物を得るためには死も厭はないでせう。彼は與へて何物も求めません。同じ方法で女が男を愛しますので彼女のすべての考は彼女が男から得ることの出来る物のことではなくして彼女が彼に與へることの出来る物のことあります。眞實の愛は唯與へんことを望みます。利己的の愛は唯獲んことをつとめます。

エマリスンは「すべての世界は愛人を愛す」といつてゐますが反對に私達は眞の愛人はすべての世界を愛すると云つてよいでせう。一人の立派な個人によつて心のうちに點火された愛情は全世界に對するものとやさしい感情となつて表はれます。彼が一人の立派な婦人を眞實愛したから世界はもつと快活にすべての人はもつと親しくなつたと嘗て一詩人は云ひました。彼は小さい子供等にもつとやさしくなりました。街の角の乞食でさへ不幸なる兄弟である様に思はれました。彼が愛したその婦人は彼に彼



女の心を與へましたから彼は出逢つた誰にでも何物かを與へたいと思ひました。此が感謝となつて愛する人の方に出て行きだん／＼とつゞいて總ての人の方に出て行く眞の愛の精神であります。

嘗て最初の一瞥で愛が出来たことを私が信じて居るかどうかを聞かれました。どうして愛が一瞬間に生じませうか？美の稱讃、豊富なる智識の評價。心を引きつける魅力の認識はあるかも知れませんが是等は愛ではありません。愛の名前に恥ぢない愛は互の眞價を熟知した堅實な基礎の上に築かれた上部構造であらねばなりません。愛は二人の若いものが日常生活の總の範圍から離れて雲の中を浮動する所の風船ではありません。其考へで愛を試みる人達は雲の世界は寒い不決なものであることを知り、全く遠から見えたる所の薔薇色の黄金色の世界ではないことを發見しませう。

愛は寧ろ地の中に基礎を置かれた建築物の様なものであります——其基礎は堅く、確かり置れて耐久であります。彼等が相互を知らないとき如何して愛することが出

來ませうか？最初に親近次に友情次に感情が成長して愛が生じます。併しどうして若い人々が眞實に親しくなりませうか？彼等は虚偽の状態の下に會ひます。彼等は社交界で晴着を着て外所行の作法をもつて相互を見ます。彼等は疑もなく互に偽り合ふつもりではありませんが、眞實の自我を引出すことは甚僅しかありません。煩はしたり刺戟したりするものもなく、正直、清楚、勤勉、忍耐、實務の才のあることを證明するものもなく、重大な収入の問題、健康問題、宗教、夫婦の義務、家庭の管理に於て眞實の思想を發表するものもありません。そして結婚して親密になると、以前に見られたら結婚を妨げたらうと思はるゝ氣質、習慣、作法の多くの個人的特質を暴露することがあまりに屢であります。

其面倒は若い人々自身ではなくして、もつと年老いた人々に源を發してゐます。併し今日の若い人は未來のもつと老いた人となりますから、彼等が其面倒の眞相を確めるのはよいことでせう。事實は即ち社會の現在の状態に於ては若い人達の交際は不自



然でありませう。極幼少の時代から少年少女はたゞ感情的に互のことを思ふ事を教へられます。學校時代の小さな少年少女は「戀人ごっこ」をして遊んでゐます。そして彼等の會話は子供の遊戯に關するよりも愛人に關する方が屢多いのです。しかもそれだけが彼等の考を占領してゐるのです。貴女が十六歳であつたとき十歳の小娘が貴女の愛人は誰ですかと尋ねたことを思ひ出させう。貴女が一人もないと答へたとき彼女の驚いた顔付と「愛人がない！まあどうして一人もなくすまされませうか？」との彼女の叫びを思ひ起させう。どうしてそんなほんの子供が愛人は女の生涯の重要な支配人であると思像したのでせう？ それは彼女がすべての少年は愛人になり得るといふことを年長者の冗談、暗示によつて教へられたからで、たとへ彼女は若かつたて其考は彼女の生活に織り込まれたのです。子供の心が如何にも早く感情的であるため、年長者の愚かな暗示によつて色づけられることを見るのは悲しむべきことでありませう。私は結婚することを話してゐたといふ六歳の子供のことを聞いたことを思ひ

出します。誰かが「あなたは結婚することを考へるにはまた小さ過ぎる」と言ふと其子供は「私は二歳のときからそのことについて考へてゐました」と答へました。そして疑もなく彼女はさうでした。なぜと云へばそれは両親や友人の會話によつて彼女の心に絶えず印象されて來て、彼等はすべて男に對する彼女の關係に就いて彼女の考に方向を與へて來たからであります。

世の両親は屢性の事實を彼等の娘達に教へることを大さう悦ばないことがありますが、惚れたふりや戀愛事件等の可能を暗示することによつて性の自覺を強くすることを悦びます。そして此の男女關係の誤つた有害な觀念が愛と云はれることが餘りに屢であります。小説の中心思想は此の性の激情的牽引力であります。その脚色は愛人達の身邊に激烈に集中して彼等の結婚に於て絶頂に達します。其後の生涯は不和もなく行つてゐると見做されてゐます。そして愚かな少女や衝動的少年は手の接觸や眼の一瞥を伴ふ甘き苦痛が愛であつて生涯の配偶を作ることに對して十分な保證であると



想像します。

愈此の問題に向ひませう。愛は何でありますか？それは何から出来てゐますか？貴女は愛の永續の程度について確實に意見を立てることが出来ますか？如何して愛の眞偽を區別することが出来ますか？

不幸にして私達は仁愛に關係する多數の局面を指名するに「愛」の唯一語しか持ちません。母は子を愛し子は母を愛します、處が此の二つの例に於て愛は大に異ひます。一は庇護的、懸念的、犠牲的の惜氣なき注意であり制限なき執着であつて、他は親愛なる寄食、疑を挾まない受納、すべてを要求して少ししか與へないものです。兄妹の愛は兄弟の愛或は姉妹の愛と違ひます。女に對する男の愛は縁ての他の愛の情緒とは違ひます。それは他の形式に於て見出されぬ要素を含んでゐます。それは與へること或は受取ること、保護すること或は頼ることの同じ分量をもつてゐるかも知れませんが、併し此がある上に他の人生の關係に於て見出されぬ或るものがありま

す。それは猛烈な激情とまでなつて、若し逆らはれたり或は曲げられたら殺人或は發狂となるかもしれせん。

此の當るべからざる。權を擅にする感情の動搖は性の事實に本來具はつてゐます。それは身體を通して全本性の表現であります。明白な結果に到達しようと努力する活動的創造力であります。その始に於ては神聖でありますが、それは最も下劣な使用にまで低下され得るのです。兩性間の愛の判然たる特徴を形成してゐるから常にそれが愛の全部であると想像されてゐます。そしてたゞ親密から來ることが出来る所の基礎の友情を缺いた強い身體的引力は、屢愛の名の値があると思はれないではありせん。處が悲しいかなそれは妄想の最も實質なきものであることが見出されます。

其名に耻ぢぬ愛は美の稱揚の事實の上にも、快よき電氣的竦動に於て現はされる身體的引力の上にもあつてはなりません。愛は身體的引力と同様に智力的先天性及精神的同情を包含すべきであります。此等の三つの成分の何れの一つを缺いても二人の間



の關係は愛と呼ぶべきではありません。

愛の眞實の基礎があるかどうかと決定されるためには感情に溺れない懇親の機會がなければなりません。若し私達が若い人達の心から戀愛物語的の考を去らして聰明なる人間として交際させ、そうして仲間たることの基礎の上に親密な關係を作ること

を許し得るならば、私達は彼等のために事態をもつと安全になし得るでせう。

併し年をとつた人が此の事件の望ましい状態を如何にして得るかを知らなくとも、

若い人々がその望ましい事を了解したならばそれを得るかもしれません。若い婦人と

しての貴女は若い男子の感情的關係の觀念を貴女の心からふり落して友誼ある仲間た

ることを考へて彼等に接するならば正しい方向に澤山の感化を得ることが出来ます。

密談に或は物思ひありげな秋波に耽りなさんな。個人的親交、手の壓力或は愛撫を

許しなさんな。お世辭笑をしなさんな。又少女には分らないかも知れませんが愛の稱

讃と身體的感情を起す努力を意味する素振をしなさんな。追従を言はれたり、からか

はれたり、女として取扱はれることを拒絶して、智力をもち道理ある事柄を理解する

才能ある婦人として取扱はれることを主張しなさい。世界、政治、文學、美術、宗教

運動の推移に興味を持つてゐることを示しなさい。世界の住民として若い男子を面白

がらす事柄について話しなさい。そして男子としての彼に訴へる所の事柄ばかりでは

いけません。淡白に、爽快に、頓智あり、賢く、併し感情的ではいけません。

若い男子が訪問する時貴女は残の家族からかけ離れた部屋に獨居ねばならぬといふ

様な考を彼に持たせなさんな。貴女の兄弟と共に彼に會へるなら、貴女の母に對す

る彼の態度を注意するなら、貴女の父と彼が話すのを聞くなら、弟妹等に對する彼の

行動をよく見るならもつとよく彼を判断することが出来る。彼は若し出来るなら

貴女の家族と會ふときは人並のことを話すでせうが、貴女自身との密談のときは面白

いたわいもない事と柔かい譚話の魔力の下に彼の智慧の不完全を隠すことが出来るか

もしれません。



それから彼が來るときは貴女其儘でありなさい。彼に家庭生活のうちにある貴女を見せなさい。貴女の家庭の任務、裁縫、母の手傳、父へ讀書して聞かせ、子供のお守をしてゐる貴女を見せなさい。正直な腹藏なき友として面白い少女であんなさい。そして感情的なことを心から追出してしまひなさい。貴女は多くのそんな友をもつことが出来ます。そして漸次に此等の中から多分時のたつに従つて益々貴女が稱讚する一人を見出すでせう。貴女は眞實と正直のために常に表はされる彼の感想を聞きませう。貴女は彼の實務の本質の幾分かを知る様になりませう。老若に對する彼の禮節を見、彼の家庭、家族、彼の社交的地位を知つて此の親しい知識から深い尊敬を以て混合された愛着が起ります。それこそ彼が貴女の心と手をうける値があり、實に貴女の全生涯を托する値があることを保證します。

友人たることがだん／＼とより親しくなつてきました。貴女は感情的ではありませんでした、貴女達は尊敬を以てお互を待遇しました。貴女の自尊心を保つてきました。

貴女の空想と情緒をしつかり抑へてきました。今はそれ等を動搖さしてもよいと信じます。貴女自身には貴女が愛してゐると云ふことを認め始めてゐるのであります。そして彼も亦貴女に對してもつと深い關係を表はし始めます。貴女は彼が自己を欺いてゐないと云ふ事實に於てある誇を以て此を見ます。彼は貴女を知つてゐます。日常生活に於る貴女を見たことがあります。貴女の智識の深さを叩いて見たことがあります。貴女の宗教的信仰を知つてゐます。そして總てに於て貴女が彼の理想に近いことを發見しました。彼の眼は新しい愛情をその眼付に持つて貴女の眼と會ひます。貴女はそれを感じます。それはその中に輝く此の世の情火でないことを貴女は知つてゐます。彼が求めてゐるのは貴女です。眞實の不死不滅の貴女であります。貴女によつての感覺の快樂のみではありません。そして貴女自身の心の中の感應を感じて貴女の眼付は同じ神聖の火をともして貴女達の眞の自我は互に物を云ひました。貴女達は次第に愛を認める様になりました。貴女達は戀に落ちませんでした。そしてまだ一言も



發しませんでした。そして處女の恥かしさを感じて貴女は彼の話を待ちます。貴女の婦人らしい遠慮は彼の尊敬を得ました。そして彼は彼の愛を告白する前に、懇意の持権を得んと試みないで明らかに雄々しく彼の求婚を嘆願して勝ちます。

あゝ私の愛する子よ此はちつとも冗談ごとではありませんでした。それは眞面目でありました。そして此の黎明の愛を見守つてゐた私達は悲劇の可能性に満ちた人生の大芝居は此所に演ぜられてゐると云ふことを知りました。私達は笑つたり馬鹿にしたりしません。併し最も情深い祈を以て、貴女を最も神聖なる人間の愛といふ神の賜物をうけることの出来る者として歓迎します。

## 第二十六章

## 結婚に於ける責任

貴女は外の何人よりも唯一人の若い男子に特別の興味を感じ始めてゐます。貴女は彼のゐないときにも彼のことを思ひます。彼の來ることを歓迎します。彼の眼は貴女を愛撫する様に見えます。彼の握手は貴女の胸をわくわくさせます。貴女は友情の領土から愛の領土へ通つていつたと思ひ始めます。

貴女がその許容を實際にする前に一緒に論究させよう。私達は事件を公正に見て境界線突破するがより賢いか、それとも唯の友人として踏み止るがより賢いかどうかを見せよう。此の若い殿方は誰でありますか？ 貴女は彼の名前を告げますが、それは何の意味もありません、彼は誰ですか？ 彼の人物は如何ですか？ 彼の才幹、器量、習慣、遺傳の傾向は如何ですか？ 彼の父母は誰ですか？ 彼等の價值は如何ですか？ 私金は金に於てははなく彼等自身に於る價值を意味します。若し彼が貴女の夫となれば貴



女の子孫となる所の彼の子孫にどんな遺傳的病氣或は缺陷を遺すでせうか？ 其家族の傾向はそれが貴女の子供等に依て繰返されるのを喜ぶ様なものでありますか？

此等の問題を貴女自身に尋ねることには猥褻なこともなく、又貴女をして満足にそれ等に答へしめる様な研究をすることには猥褻なことはありません。結婚する婦人は彼女の夫の家族と姻戚になるばかりでなく、彼の家族と結婚するのであります。彼女は家族の一員となり彼女の子供が其家族の氣質、性質、傾向をもつて一人づゝ彼女の暖爐のまはりに集つてくる毎にいよゝ益々親密な伴侶として家族と共に住むのであります。

其家族は彼女の全生涯を舉げて親しく交はりたいと彼女が望む所の種類の一つでありますか？ 貴女は夫の母を愛せず或は彼の弟等を感じないでもそれは大事ないと感じずるかもしれませぬ。貴女は彼の父を尊敬しないでも大事ないでせう。貴女は是非彼等に逢はねばならぬことは數年に一度よりも多くない程遠く彼等から離れて住むで

せう。貴女は決して彼等に逢はない事にさへなるかもしれませぬ。併し彼等が尊敬すべき或は愛すべき人達でないことは、彼等は貴女の子供等の系統の二分の一を構成しますから大層重大事件であります。彼等の最も好ましからぬ特性は恐らく貴女の息子や娘の天稟となるかも知れませぬ。そして貴女の心は貴女が彼等のために選んだ所の父の遺傳のために貴女の家庭の名を汚し習慣——或はそれは犯罪かもしれませぬ——を痛み煩ひ或は失望落膽さへするでせう。此の見地より見て結婚は最も重大な事件となりませぬ。少女が一般に式より一步進んで結婚のことを思ふのは慎のないことであると考へてゐるのは不幸であります。責任義務について彼等は無智なるのみならず経験が彼等に教へるまでは知らないのであることが貴婦人らしいと思つてゐます。しかもその經驗の教へることは屢落膽の悲しみを伴つてゐます。若し貴女がよく探究するならば母の大部分は彼等の最初に生れた子供を葬つたと云ふことを發見するでせう。そして彼等は其故を尋ねたなら大抵の場合先づ例外なしに彼等はどうして彼等に健康



といふ持參金を與ふべきか或はどうして彼等の身體の必要を注意すべきかを知らなかつたからであると言ふでせう。

さて兩親が子供を如何に訓練するか如何に彼等の自信を保つか如何に賢く彼等を正道に導くかを知らなかつたから、子供等は墮落をなし亂暴、放蕩、犯罪をさへなすことを貴女に示すでせう。

母たる者は如何に子供を指導し支配すべきかを知つておかねばならぬと云ふことは大へん重要であると信じます。處が此の重要な任務を帯びる未來の母を訓練しません私達は少女に裁縫、料理、刺繡、ピアノを教へます。私達は彼等に教へないで菓子やプツチングの成分の混ぜ方を知つてを豫期しません。併し私達は彼等が人間の特性を形造る時に質の異つた合成物の混合に於て最良の結果を如何して得るかを直覺によつて知ることを想像します。

私達は母の特権を話す時實際の母について考へます。その特権は彼女の實際の子供を注意し導いて行く事でありませう。併し母の特権は實際には彼女の生活の習慣と思想によつて彼女自身の品性を決定しつゝあり同時に大きな程度に彼女の持つべき子供の才幹傾向を創造しつゝある所の彼女自身の少兒時代に始ります。彼女の少女時代に彼女自身の健康上の注意によつて彼女の後裔のために體力を十分獲得するのは母の特権でありませう。彼女自身の心力を馬鹿らしい讀書や不注意な勉強法に浪費しないことによつて彼等に精神力を與へることが出來ます。彼女自身の自尊心ある行動によつて彼等とその行動を賢明に保證する所の自我に對する尊敬を與へることを助けます。總て此は母の特権であります。そして猶一つもつと大きな特権が彼女のものであります。それは彼女の後裔の系統の半分を選ぶ事でありませう。彼女は彼女自身を通して彼等に來る所の系統は選ぶことが出來ませう。それは既定の事實であります。彼女の兩親は必ず彼女の子供の祖父母となるにきまつてゐます。彼女の家族の特性も亦彼等の遺傳であります。彼女が彼女自身を通して彼等の遺傳に關してなすことの出來る唯一の事は



その故障ある特性を改めて自ら善良な特性を作る事でありませぬ。それで家族の缺點は彼女に於て弱められ、遺傳の割合は輕減されて、其家族の徳性は強められ、彼等の尤もらしい遺傳は強められます。併し彼女は彼女の家庭の父の系統はどんなものであるかを決定する力がありませぬ。それで若し此の力の責任に對して適當に印象されるならば彼女は其の家族については何も知らない、或は子孫の繁榮がよく保證されないと云ふ事實を知つてゐる男と自ら戀に落ちて結婚することを許さないでせう。

## 第二十七章 遺傳の法則

私は嘗て或る人がその死の床で風變りの遺言狀を書いたことを聞きました。彼は子供に傳へる家屋も土地もありませぬでした。併し彼は彼等が彼から澤山相傳してゐたことを觀察しました。そこで彼は彼等が既に所有してゐるものについて彼等に形式的の遺産をやりました。彼は次の様に書きました。

『私は息子のジョンに私の大きな骨ばつた體格と、私の無頓着によつて得ただらしない歩み振りと、又私の遺傳の肺病の傾向を譲る。娘のメーリーに租つぽい生活の結果である私の青白い顔色と、無感覺の肝臓と、又私の幽鬱な性質と人生の暗黒面をみる傾向を譲る。息子のサムエルに私の酒に對する嗜好と怒りつぽい性質を與へる。娘のヂエーンに私の思考の租漏なことと、私の慾望を制肘されることを好まぬこと及び自殺する傾向を譲る。』



『大へん不思議な遺言状だ』と誰でも言ひました。併しそれは遺言者の死去のずつと以前に檢證された遺言状でありました。それが完全な満足を與へたとは私は主張しません。併しそれは決して辯護士に争論せられもせず辯護料もとられませんでした。丁度そんな遺言状は書かれてはゐませんが、毎日若い人達の生活や行爲によつて作られてゐます。未來に於て何時かはすべての人々に知られ讀まれる『生命ある書簡』にかゝれるであります。

他の遺言状は毎日作られてゐまして、それは酒を飲まない道徳的な若い人の生活を通して後裔に健康、體力、純潔、能力の天賦を譲るであります。

此は眞實でありますから未來の『人生の大都市の住民』として個人的特性の遺傳を支配する法則を若い時に研究するのは思慮ある先見の一つである様に思はれます。此の法則は遺傳として知られ、その最初に書かれた記録は創世紀の第一章にありましてそこには『すべての植物と動物はその種類に従つて發生するものなり』と書かれてゐ

ます。私達は此の法則の結果を見ることに大へん慣れてゐますので、それを僅しか或は全く考へません。草が私達の芝生や牧場に毎年成生するのを見ます。若し私達が或る花の種子を地にまけば決して他の種類でない其種類の花が常に發生することを知つてゐます。農夫は小麦を蒔いた後で收穫はライ麦或は大麥でないだらうかと心配はしません。猫の子は矢張仔猫で鶯鳥のは鶯鳥の仔で人間の子であることを豫期してゐて決して失望させられません。その法則は總ての事情の下に應用が利きます。私達は又保持される或る種族の特質があることを見ます。モンゴリアン種族は特別に高い顴骨、黄い顔色、斜におかれた眼をもつてゐます。そして私達は洋服を着てゐてもすぐに日本人或は支那人を認めます。そして又私達は或る著しい特徴によつてアフリカ種族或はコーカシア種族を認めます。此の人種上の特性を遺傳と云ひます。それで各種族は其自身の身體的或は精神的特性を有つてゐて、それを私達は國民性として認めてそれについて話をします。私達は常にチュートン族國民の一特性として



儉約を擧げ、愛蘭人を頓智ある喧嘩好として特性を表し、佛蘭西人は禮儀正しきものとして、亞米利加人は進歩的なものとして認めます。

各個人は彼の人類としての遺傳即ち彼の種族遺傳と國民性とを有つのみならず、又家族の特性の天賦を有つてゐます。

併し私達は祖先傳來の所有物のみの寄せ集めものでは出来てゐません。私達は私達自身のうちに固有の或る物を有つてゐまして、それは私達を各から、そしてすべての他の者から違はせませす。私達はつぎはぎ細工のさしこの蒲團、或る無地色の物を集められた雑色の建物の様なものであると時々私は思ひました。或は私達に先んじたすべての人達の性質能力で作られた緯を以て完成された私達自身の個性の經をもつた「でたらめ」のぼろの敷物に私達は似てゐると猶一層考へました。御承知でせうが「でたらめ」のぼろの敷物を作る時私達は種々の物やすべての色の細長い小布をとつて順序排列に頓着なく縫ひ繼ぎ此等の長い紐が經の中に前後に織られて、遂に敷物がさまつ

た模様を表はさずに時には粗製の不體裁であり、時にはおとなしい色で、美術的である色や色合の混雜を表はす敷物が織られます。

私は子供の頃父或は母或は多分祖父母にまで屬してゐたのだと認められる着物の断片を敷物の交じり合つた色の中に求めることを大へんな悦びとするのが常でありました。私のもつと成熟した年輩の只今でさへそれ等の同じ祖先の身體的、精神的、道德的特性を私自身に發見する事に興味を持つてゐます。そして貴女は疑もなく同じことをすることが出来ませんが、貴女の特性の或るものは祖先傳來の遺傳の上に個性的變化を築いて全く貴女のもの様に見えます。

自然は今日の寫眞師が近世の發見であると思つてゐる所のもの即ち私達すべての重ね寫眞をとることを幾世紀の間注意を拂はれずにして來てゐました。

此の遺傳の法則を通して人類の智的、道德的、犯罪的型が起りました。そしてその手續は繼續してゐます。其等の型は次第に著しくなりつゝあります、或は其型を



變ずるために修正する影響が持ち込まれてゐます。

此等の影響は其の原因にまで遡つて行くことは出来ないかもしれないけれども、又法則の結果であります。之を知つて私達は遺傳は宿命ではない、未來の時代の者への贈物を修正する力は私達のものであると云ふことが分り始めます。如何にそれを使用するかを知るために私達は機會のある限り其法則を研究すべきであります。

此の問題は大きなものでありまして、疑もなく貴女は何時かそれに十分の研究を與へてみたいと思ふでせう。けれども丁度今は私の説明をうけ入れねばならないでせう。私は説明を専門的にするつもりではありませんが、未來の生涯の責任に對して貴女を最もよく適合させる所の知識を望んでゐる若い婦人としての貴女に全然實用的に説明したいと思ひます。

皮相の研究は寧ろ落膽させるものであります。私達は幾分か確に悪い特性は遺傳することを見ます。そして私達はその法則の殘忍なものであることを感じます。併しな

がら若し私達が忍耐するならば、神様のすべての法則の如くその目的は人類の利益のためであることが分りませう。私達はその法則から慰安をとり始める前にその警戒を學ばうではありませんか？その一つは個人のすべての弱點は體力であれ、智力であれ、或は道德組織であれ、子孫に同様の弱點を生ずる傾向があるといふことであります。私が貴女にこう云ふのは現在の若い人々は彼等の手に未來の幸福を握つてゐるからであります。彼等の習慣は今日人類の有り得べき事柄を形づくつてゐます。若い婦人は健康の法則の個人的侵犯は重大事でないと感じるかもしれませんが、今日の少女は未來の母であると云ふこと及び各個の少女の強壯或は虛弱は今日國民の平均健康に影響するのみならず數世紀間彼女の後裔に現はれるかもしれんことを實感するときは、各少女の健康は國民及人種上の重大事件であるといふことを知ることが出来ま

す。

併し望ましからぬ性質の遺傳に於て遺傳の法則を避ることの出来るのはたゞ身體組



織に於てだけではありません。精神或は道德の悪い遺傳や傾向の遺傳されることが分ります。短氣は殆ど間違なく一代から次の代に傳へられて兩親の何れかのどんな特別の氣質でも全く子供の遺傳となるらしいと云ふことをガルトン氏は發見してゐます。此の事實は私達の小さな缺點を他のものよりも非常により重大なことに見えしめます。それ等のものが私達自身にあるのは忍ぶことが出来ませんが、それ等のものを私達の子供に現はされてゐるのを見ねばならない時には、私達は實にひどく不愉快に感じます、詩人は次の様に歌つてゐます。

氣に留めなかつた小さい癖を

私は今では輕蔑をする。

私の幼兒は彼女の髪の毛や眼と共に

その缺點をとつたから。

私達が兩親達に謹みなく物言ふ時は私達はあまり不快に感じないかもしれませんが

私達の子供が私達に禮儀、心服の缺乏を見せるときはそれは深く心を傷ませ、彼等の行爲に私達自身の缺點の反復のみを見るならば猶一層深く心を傷ませます。

勿論此等の些少の缺點が遺傳され得るならば私達のもつと重要な道德上の缺點が傳へられると云ふことに驚かないでありませう。泥棒の孫は三歳で盜を始め十四歳で本物の拘摸となりました、警察の記録は年々繰返さるゝ同じ姓を示します。

かういふ事件は注意を引く程に重大であります、もつと小さい不徳性が遺傳され勝であり、恐らくは益力強く遺傳され易いといふ事實を看過してゐます。私は父の嚴しい正直の僅かの缺陷は息子に於て實際の罪として現はれはしないかと恐れます。

私は此の遺傳の議論に於て隔世遺傳の法則も亦説述するとを省きたくありません。此は或る性質の遺傳に於て一代だけ表はれない所の法則の名であります。私達は男女の特性や缺點がその子供には表はれないがその孫に繰返されてゐるのを時々見ます。

近い頃私は或る家族のうちになりましたが、その兩親とすべての子供は唯一人を除



いて黒い髪を有つてゐました。その一人の娘は長い赤褐色の捲毛を有つてゐました私は「貴女はどこでその髪を得ましたか？」とたづねました。

「赤い頭の私の祖母さんから」と彼女は笑つて答へました。その事は彼女が全く十分了解するまでに、屢彼女の聞いてゐる所で論ぜられたことを示してゐます。

遺傳の法則の全般に涉つて論ずるには私達が費さねばならぬより以上の時間を要するでせう。貴女はその思想の方向を終局までやり通すことが出来、此處に述べられた事實及原理の實際上の適用をなすことが出来ます。

## 第二十八章 アルコール煙草等の遺傳的結果

文明生活はその進歩の道程に於て或る風俗習慣を伴ふものであつて、それは個人の健康に延いては國民の健康に有害であります。婦人の着物は單に嘲笑侮辱的となる軽い事件ではありません。流行は屢畸形を造ります。それ故に是等の畸形の結果が遺傳されると云ふことを知つた時は特に最も賢明なる熟考の價値があります。

少女の堅く締められた腰は内部器官を變位せしめ、消化を弱くし、彼女の子供から其正しい遺傳を奪ひます。子供は減ぜられた生活力と小さくされた神経力を以て生れ、生きてゆくことがより少くなり、身體が弱く生長する傾向があるのみならず、又精神的道徳的本質に缺けてゐます。此の弱點は不道徳的傾向に或はある形の醜態に現はれるかもしれせん。酒精中毒は神經變質を生ずるだらうと云ふことは今日認められて居ますが、神經變質は酒精或は他の毒物で常習大酒家をつくる原動力となるかもしれ



れないと云ふことはあまりよく了解されてゐません。

クロザース博士は「ヒステリー、癡癡、不合理な憤怒、激怒、憂鬱、輕信、懷疑、最も異常の感動性、過失ある推理は神經變質の標徴の或るものである」と述べ、更に附言して此の神經力及腦中樞の破産は「屢結果として生ずる酒精或は藥品の酪酐を伴ふものである」と云つてゐます。即ち弱い變性した神經は刺戟を要求し、意思の弱い人はその要求に従つて酔ふことになりす。若し此の神經の變質が母の生活、衣服の不健康な習慣の故に母に與へられた氣力のない生活から來るものとすれば、彼女の若い時代に此の可能性について了解して、彼女自身の注意によつてそれを防ぐのが賢くはないでせうか？

彼女は亦個人には神經變質を生じ彼の子孫には變質の可能性を生ずる所の酒精及其他の毒物の傷害を了解すべきであります。

チヨーチ、マクミカエルズは次の様に言つてゐます。「酪酐が外的の症候である所の異常状態の遺傳的性質は醫者にさへも事實の如く了解されてゐません。それはまた個人によつて得られた弊害、勝手な悪行の結果として見られてゐると残念ながら私は申します。或る二三の場合には此は眞實かもしれない併し實例の大部分に於ては家族の歴史を探究してみると遺傳された缺點の存在が分つてそんな家族は通例神經病の條件を示してゐます。社交界或は知識界の地位の人は酒精中毒の傾向は全く今日までありませんでした。そして酒精の犠牲となつた大人物の家族の歴史の研究は人類の最も曖昧なる間の事件同様であつたことを示すでせう。即ち此にその患者をして殊に感じやすくさせる所の變質された神經状態が遺傳せられ、癲癇、白痴、自殺の如き神經病に類同されてゐました。弱い神經系統の遺傳は私が「アルコール圍繞」と呼ばねばならない所のものによつて個人を容易に感動せしめます。言を換へていへば尋常の堅固な神經組織には何等影響しない所の飲酒の刺激は神經病患者を常習大酒家と變ずるに十分であります」と。



若い婦人として貴女は貴女自身のうちに、又貴女の感化によつて他人殊に若い男子の上に種族を支配する大勢力を持つてゐます。貴女の感化は賢く使はるれば一人以上の人を大酒家の運命から救ふかもしれず、又それを賢く用ふるためには貴女は酒精の眞の特徴と系統に對する結果に關して教えられねばなりません。精酒の傷害の詳細に涉つてお話する時間はありませんが、此の點に於る遺傳の法則についてお話する時間はとらねばなりません。

白痴と酩酊は文明人の間に増加してゐます。此の驚くべき事實は私達にその理由を問はしめるでせう。

酩酊を一生の研究としてゐるクロザーズ博士は二八七〇年から一八九〇年まで酩酊が百パーセント以上人口の割合に増加した、そして大部分は兩親の一人或は二人共の酩酊の結果であると云つてゐます。多くの婦人、立派な社會的地位にある婦人までが酒精飲料を好むといふのは悲しい事實であります。私は近頃或る大へん陽氣な美しい若い

婦人を見ましたが、その方は宴會のときアイスクリムや菓子を食べることを拒んでパンチ（火酒に湯、レモン汁、砂糖等を混じた一種の混合酒）を四杯飲みました。彼女の赤い顔や無遠慮な様子は見る人に十分彼女が飲みすぎてゐることを證據立てゝゐますが、そんな考の閃も明かになく、其の同じパンチを彼女の嗜好に關して多くの冗談を云ひながら飲んでゐました。多くの人は美しい飲料即ち葡萄酒又はその種々の變装したもの、如きは酔はさないと云ふ考をもつてゐますが、併し此の點について彼等は間違つてゐます。總ての酒精飲料はその酒精を含む程度まで酔はせます。葡萄酒を飲んで陽氣になる事は酩酊の第一歩にすぎません。そしてそれは常に伴ふ判断の缺乏、禮節、意識の減退を意味します。

普通の事情の下にあつて舉動に最も謹み深かつた一人の若い婦人が其の結婚の時彼女の健康の祝盃に答へる爲、飲んで大そう酔うて陽氣になり、遂に彼等が新婚旅行に出發する時停車場までその若夫婦について來た所の陽氣になつた彼女の友達の拍手喝



采裡に停車場のブラットホームでチツグ（すてゝこの類の舞踏）を踊りました。何とまあ悲しい品位のない結婚の義務への首途でしたらう！

絶對禁酒をする外には男女ともに絶體な安全はありません。放蕩者は葡萄酒の結果を知つて若い婦人を迷はせるために其知識を使ひます。彼女が若し正氣であるならば彼の甘言に迷はされないでせうが、葡萄酒を飲んだ後では彼の接近をはねつける意志がありません。

或る若い夫は彼の花嫁に彼を同伴してゐるときの外は彼女は決して一杯の葡萄酒をも飲まないといふ約束を強請しました。そしてその理由を問はれたとき婦人の判断力は一杯の葡萄酒を飲んだ後は信用されるものでないと云ふことを知つてゐると答へました。

婦人の酩酊の他の原因は總ての苦痛にきく萬能藥として廣告されてゐる賣藥に見出されますが、それは化學的分析で大へん酒精を含んでゐることが分ります。多數の禁

酒婦人は彼等が用ひてゐる苦味藥、強壯藥、恢復藥に於て六乃至四七パーセントの種々の分量の酒精を攝取してゐることを知つたら吃驚するでせう。その藥の多くは「純粹に植物より得たる越幾斯、全く無害、神経系統に力を與へる」などと、殊更に廣告されてゐます。

子孫に傷害を及ぼす兩親の酩酊の結果は過去に於てはよく了解されませんでした。併し今は認められようとしつゝあります。マクミカエル博士は言つてゐます。

「精神錯亂のすべての型に於てその病氣は次の代の關係してゐる限りでは父に於けるよりは母に於ける方がもつと危険であります。此は常習大酒家の兩親の娘は或る男達にとつては彼等の感じやすき、快活な、神経病的な態度のために屢々心を引くのですが、嫁を探してゐる若い男達は注意して之を避けねばならぬと云ふ適當な十分な理由であります。常習大酒家の娘と結婚する人は彼自身の幸福を危くするのみならず、彼の子供に身體機能の退化と不幸を招く危険を冒してゐるのです。」



婦人は折々であつても過度に酒をのむ男と結婚してはなりません。更に進んで常習大酒家の両親の息子の性質は娘が婚約をする以前に探究するべきであります。此は長い婚約が非難されるべきでないといふ一例であります。何となれば若しその男が酒精の要求を遺傳してゐたならば、それは其内に知られる様になるかも知れず、彼の婚約せる女は私が考へつくうちで一番恐ろしい運命——常習大酒家の妻になること——から救はれるかも知れません。

論題の此の局面を去る前に今一言を費します。常習大酒家の大多數は幾分かは遺傳的先天性の結果たる病氣に罹つてゐる人でありますから、どんな婦人でも彼を矯正することが出来るといふ確信を以て常習大酒家と結婚するのは馬鹿なことであります。若し婦人が酒精中毒は病氣であつて悪習ではないと云ふことを實感するならば、その献身と自己犠牲とを振興す所の精神は賞讃の値があります。その成功の可能は大へん遠遠であると云ふことを彼女等は了解するでせう。疑もなく此の實驗をした婦

人もあるし常習大酒家をどうかこうかして所謂「矯正し」た婦人もありますが、併しそんな場合は決して多數ではありません。惱める人類の代表人物を助けようといふ努力にかけこれ干渉をしてみるのには正しくないかも知れませんが、次代の運命は存亡に關してゐます、且つ私達はよく等閑にしがちであります、まだ生れない子供は確に権利があると云ふことを記憶せねばなりません。それでは誰でも他人を裨益する爲には何物でも總て生命それ自身でさへも賭けてやるのは自由であると云ふことを許して、さて誰でもたとへそれが高尚であらうとも愛情の本能又は感情を満足させる爲に家族の未來を危くする道徳上の権利があるとは云ふことは出来ません。私の書いたことが眞理であるならばどんな婦人でも常習大酒家と結婚して成程尤もとは思はれません」と。

飲酒家の両親によつて遺傳された不堅固な神経組織は彼等の不幸な子供の頭上にあるダモクレスの劍の様なものであります。そして節制ある飲酒家でさへも彼等の後裔



に強壯な身體と強い意志を興へないでせう。或る男は五十年間毎日一瓶の葡萄酒を飲んでそれは彼に何の害もなかつたことを誇りました。併し彼の十二人の子供のうち六人は嬰兒のとき死に一人は白痴で一人は狂氣で残のものはヒステリー患者でありました。さて酒精は酩酊させる唯一の物質ではありません。阿片、モルヒネ、クロラル、コカイン、及び類似の性質の總ての薬品は危険であつて、各その害を個人に興へるのみならずその結果をその神経の變質として子孫に遺傳します。その變質はその人をして總ての形の酩酊に容易く犠牲となします。そして酩酊は殆ど中毒と變る所はありません。阿片とモルヒネは醫者に屢處方され、患者は突然苦痛から助かることを経験して、恐らしく耽溺の危険は知らずに次の時には自己の責任として快よき苦痛鎮靜者になつて彼がそれを知る前に殆ど習慣が出来上ります。そして温順なる犠牲者を造る弱い意志は今では彼の鎖を呪うても而かも斷ちきることの出来ない所の不本意の奴隸となります。そしてこんな悪習慣は實際に於て遺傳されます。

ロバートソン博士は言つてゐます「遺傳が神経系統の總ての機能的病氣或は状態に働く部分は誤解されてはならない。狂氣、舞踏病、ヒステリー、偏頭痛、飲酒狂、道徳上の狂氣、どの特發病の場合も遺傳的先天性による外は起ることは出来ない」と。モルヒネ中毒の害毒は精酒中毒よりも大きく、その遺傳はそれに劣らず確であります。特に道徳力の損失があります。ロバートソン博士は又言つてゐます「人の過去の生活が如何に尊敬すべき、正直な良心に従へるものであつたにもせよ、彼をして十分にモルヒネに耽らしむれば薬品の使用について或は彼の習慣に關する他の問題について彼がなす所のどんな陳述をも信じたくない」と。「コカインはその弊害が阿片の煙を吸入するよりも更に危険であり奴隸的である所の唯一の薬品である」と。ブラッシ博士は言つてゐます。

此年頃の放逸な生活に於る危険は疲勞をより少く感じて過度の仕事をして爲さしめることの出来るあるものを見出さうとする事でありませう。此の場合私達は私達の力の貯蓄



に加えて行かないで、豫備の力を使ひ盡しつゝあることに氣付きませぬ。

通俗科學新聞の言ふ所によればコイラ、ココア、チョコレート、珈琲、茶、及類似の物は神經の働をもつと軽く思はせる。何となれば最も神聖に保存さるべき所の取り置き資本を呼び出すからである。そしてその結果は神經の破産であると。兩親の神經破産は遺傳の法則によつて未來の時代の幸福を脅かすことを了解すれば私達は確に此等の物質の使用によつて起る緊張の下に私達自身を持つて來ることを躊躇するでありませう。

現在の最も危険なる習慣は殆ど煙草の習慣である様に思はれませう。何故ならばそれは全く卑しくないものと考へられ、従つて殆ど普遍的であるからであります。有名な政治家、實業家のみならず道徳指導者の如き人々までその弊害を明に認めないで喫煙してゐます。そして若者は屢々其習慣の始めを或る牧師或は日曜學校の管理者が喫煙者であるといふ事實によつて認可することが出來ます。

併し科學は煙草の弊害の研究に關して怠りませんでした。そして爲された發見は公表されましたので、私達は今では煙草の心臟、煙草の咽喉、煙草の神經について、或は喫煙者の子供に對する神經退化の遺傳について無智ではありませぬ。

少女は時々惡戯に卷煙草を吹かすのは大へん面白いことと思ひます。それが喫煙の習慣になるものもあります。併しその害毒は卷煙草の使用が惡戯に始められたとか又は使用者が婦人であると云ふ事實によつて軽減されるものではありません。

實際メヂカルタイムズは彼等の趣味に合つた贅澤に耽るための、或は當時は彼等の快樂に貢獻するかも知れぬ所の十分な資力と餘暇とを有つてゐる女性達に今日大へん普通である所の消化器官の一般の障礙を含む神經衰弱症の多くは麻醉劑によると云ふ主張に傾いてゐます。

南北戰爭の時検査された總ての男子の十三パーセントは軍隊勤務に不適當の者としてはねられたと云ふことでもあります。只今は三十一パーセントの者が不適當であると



のことでありませぬ。若者の殆ど三分の一は兵士となるに身體上無資格であることが分つてゐます。何の原因からでせうか？ 確に煙草はその責の大部分をうけねばなりません。

數年前アナポリス海軍兵學校のメイヂヤ、ハストン氏は入學志願者の五分の一は心臟病のためにはねられ、是等の九十パーセントは煙草を使用することによつて心臟に故障を生じてゐたと話しました。

ピダッチ博士は主張して「ヒステリー、憂鬱症、肺病、矮小畸形、宿痾的喫煙者の子供の苦惱生活と夭死は彼等が譲つた所の組織の虚弱に十分の證據を示してゐる」と云つてゐます。

少女は時々若い男子の少しの亂暴は寧ろ稱讃さるべきだと云ふ考を持つてゐます。ある時若い婦人が煙草使用の弊害に關する講演を聴いて教會を出る時こう云ひました。「若し若い男子が煙草を吸はないなら私はその人と結婚したくありません。それ

は男らしいと私は思ひます。私は男の中の男でない様な夫は望みませぬ」と。

何年かの後彼女の三人の赤ん坊が彼等の父が宿痾的喫煙者であつたが爲に幼児中風を以て一人づゝ死んだ時全く彼女にとつてはその習慣は稱揚すべきものでない様にはれました。そして彼女自身がニコチン毒の空氣を日夜呼吸せねばならないから不治の患者となつた時、彼女の無智な少女時代に男らしいと特性づけてゐたその習慣を大聲あげて罵詈雑言しました。



## 第二十九章 種族に與へる不品行の結果

少女の大多數が知らない所の種族退化を起させる事に力ある他の影響があります。それは即ち不品行であります。若い男子は「放蕩をせねばならぬ」と云ふ普通の觀念は多くの若い婦人に眞理として許容されてゐます。そして彼等は其の愛する人が結婚前に改悛して其後彼等に誠をつくして行くならば、それが彼等の道理上要求することの出来る總てであると思ひます。彼等は自ら道徳から墮落したことに對してそんな言譯はしないでせう。併し彼女等は男子は純潔の絶對標準に保たれるものではないといふ考を呑み込んで、そして若い男子の怠慢に彼等の眼を閉ぢるのは思ひやりのあることと思ひます。人類生涯の此の章は讀むに悲しきものでありますが、併しその警告に注意することは多くの少女を悲嘆より、多くの妻を心痛より救ふであります。神様の法則は「汝なすべからず」の最も嚴しい法典に婦人を縛りつけて男子には「

汝なしてよし」の自由を許す如き二重法則ではありません。

道徳上の法則を犯すことに課せられる天罰はその結果に於て一個の違犯者と彼の子孫との上に最も嚴しいもの、一つであります。道徳上の墮落と同様身體上の病氣の最も恐ろしい祟りが不純の生活についてきます。徹毒として知られてゐる此の病氣は實際に不治のものであります、それは一時消えるかも知れませんが、晩年或る外の形をとつて再び表はれます。そして總ての症候がその人には沈靜になつた後でさへも遺傳の或る形をとつて彼の子供に再び現はれるかも知れません。一回の墮落でさへも此の恐るべき毒を若い男に感染せしめるに十分であります。それは數年の後に彼の無垢の妻に傳へられ、彼の子供に遺傳されるかも知れません。

ガーンセイ博士は次の様に述べてゐます。「直接病氣に悩んだりして、斯様に感染せられた毒の結果幾百萬の人が年々死ぬと公言しても私は其光景を大袈裟に言ひ過ぎません。と云ふのは其結果を徐々に差込んで全身を毒することに由つて色々の病氣を併



發せしめ不治の人となします。此の恐るべき傳染は時々他の急性病に附け加えられ長引く病氣がついて數年間の不幸を起し、唯死に終るのであります。折々其毒が咽喉を襲うてそこに最も破壊的變化を起します。時々鼻骨を襲うてその結果全く破壊して顔の恐ろしい不具となります。時に身體の別の部分に於て他の骨質組織を腐爛破壊することになります。此等の事實の生きた實例はあまりに屢大都市の街中で目撃せられます。血液中に此の毒の極軽い傳染を受けて結婚してゐる若い男はきつと彼の子供に其病氣を遺傳するでせう。その毒は子供が生れるだけに十分發育する前子宮内で之を殺す程に破壊的でありますから、此原因のみによつて毎年數千の流産が起ります。たとへ子供が生きて生きてきても或る種類の最も忌はしい病氣で弱つて行つて齒の生へぬ間に死に易いのです。此の時期を生き延びた少數の者は短命であつて彼等が生きてゐる限りは健康ではありません。男が女との最初の淫奔なる結合は彼に一生の罹病と死其者さへも蒙らせる汚穢を伴はされるかも知れません。その發端に於ては殆ど氣

がつかず全身を腐敗せしめ、その空氣を周圍の友人に不快に思はせ、そして多數のものを文字通りに墓の中に腐らします。それは身體の一部に始まつて通常多少の程度に於て全系統に擴がり、それが染み込んだ身體の總ての部分とある方法で接觸した所の他の人にとりて自身を擴げる力を有つた病毒であると最も有名な醫師等に言はれてゐます。それでその濕氣でさへも麻布や其他の物で傳へられたりしたら不幸にしてそれに觸れた人を腐蝕するかも知れません」と。

少女等が此事をすべて承知してゐるならば彼等は單に不品行な男と結婚することを警戒するのみならず、毒蛇を恐れる如く彼等との身體上の接觸を恐れるでせう。若い男に親密であることを許すことの當否に關して多少弛い考をもつてきた一人でない多くの少女等は唇の接觸に由てのみ汚損の結果を繰返して來ました。今日立派な社會的地位にある一人の若い婦人は此の原因からの患者であります。彼女は然るべき家族の併し不品行の青年と親しくなりました。彼の陽氣なことは彼女にとつて魔力があり、



彼の評判の放逸はたゞ魔力を加えるばかりでした。或る晩彼が彼女をうちに送り届けて入口で別れる時彼女は彼に接吻することを許しました。そのとき偶々彼女は唇に小さい傷がありました。彼の唇の有毒な接觸は此の一寸した擦過傷を通して傳染病菌を運びました。そして彼女は微毒性の病菌に感染して今日ではその結果忌はしい不具になつてゐます。私はそんな場合を澤山擧げるに及びません。貴女は百の例と同様一例で警告されることが出来ます。

その評判は悪かつたが社會的地位の高かつた人と或る若い純潔な婦人が結婚しました。今日彼女は彼が傳へた恐ろしい病氣に罹つて居り、そして彼女の子供等は死んでしまつたり或は彼等の父の非行の話を彼等のその顔に表はして世間に對して發きつゝあります。眞に貴女は此れ程の重大な事實を知らないでゐることは出来ません。

### 第三十章 遺傳の福音

此の遺傳の法則を作つて有罪な兩親の罪を無辜の子供に強ふるのは神様が間違つておられると屢々人々が言ふのを聞いて私は始は或はさうかもしれんと思ひました。併し神様は正義の神様でもあり慈悲の神様でもあります。その最終の結果に於ける神様の法則に關する私達の研究はその法則が常に私達の幸福のために作られてゐることを知らせます。人々の大多數は眞直か畸形か病氣か健康か正直か不正直に生れついてゐますか？さうであります。私達が動物でなくて人類であると云ふ事實私達が器官と才能の適当な釣合を有つ事實、私達が畸形でも白痴でもないといふ事實が總ての遺傳の状態であります。そこで遺傳の法則は私達が遺傳として容易く認めれば認める程著しい特性と同様に器官や才能の完全な補充を私達に保證するものであるといふことが



分ります。善い人々の遺傳は大へんどれにでも適合つてゐるので、それを私達が思ひつかないと云ふのが事實であります。

赤ん坊が「容貌よく」つて正しい四肢をもつてゐる時は遺傳には何の評判も與へられません。併しそれがいくらか普通のものでないならば。私達は兩親の品行の或る結果を彼に負はした所の法則を非難します。

彼が若し善い精神をもつてゐるならば此は或る祖先の精神薄弱の遺傳と同じく確に遺傳であると云ふことが殆ど私達の考に浮びません。

遺傳の福音とは私は此の光明方面即ち此の法則の「良い音信」のつもりであります。聖書の最初に書かれた此法則の記録にはそこには父達の罪が三代目四代目の子供に報ひられたといふ記事がありますが、亦神様を愛し神様の命令を守る彼等の幾千に慈愛を神様が示されたと云ふ『良い音信』の記事もありません。そしてそれは幾千人ではなくして幾千代の意味であります。正義は三代目四代目に割り當てられますが、慈愛は

幾千代に割當られます。

聖書を通じて私達は此の法則の光明方面が記述してあるのを見出します。多分貴女は聖書から法則と福音とを研究したいでせう。そして貴女は自分でそれを見出すことが出来ます。名高い人々の傳を読み才幹能力の遺傳を観察するのも亦興味あることでせう。

此問題に對する此の見解が如何に鼓舞しようとも、それは決して遺傳の問題の最も光明の方面ではありません。何となれば私達が若し特別の才幹を遺傳しなかつたならば、そして又私達の祖先の罪の遺傳の結果不利の地位に置かれるならば「私達に對しても或は又私達の子供に對しても絶望であります」と私達は言ふかもしれませんからです。それなら私達の所に特別の「大喜びの良い音信」として遺傳は宿命的ではないと云ふ報知が來ませう。私達は祖先が私達のために造つた手械足械に坐つて靜かに耐へてをつてはなりません。私達はその鎖を斷つことが出来ます。私達自身を自由にする



ことが出来ず、それは困難かもしれませんがなされ得ることです。そしてその努力に對する大なる動機は成功によつて私達自身を進歩させるのみならず、私達の子孫により良き遺傳を傳へることが出来ると云ふ事實中に存在することが分ります。

私達はその法則に従つて私達の健康を増進しその結果遺傳的虚弱に大いなる程度まで打勝つことが出来るかもしれませぬ。私達は祖先の一人が肺病で死んだからとて絶對にそれで死なねばならぬと云ふことはありません。單純な生活と特に清純な空氣の深呼吸とによつて私達自身を強くして結核菌の侵入に抵抗する力をもつことが出来ず。

私達は弱い消化力を持つて生れても淡泊した滋養ある飲食物、全く心配せぬ事、總ての健康に適する習慣に十分注意する事によつて私達は強くなつて胃弱の症狀を無くするかも知れませぬ。

私達は精神と品行の教養によつて私達自身の力を増大するのみならず。私達の子孫

の力に附加することが出来ます。

それから精神的教育の結果も亦遺傳します。教育それ自身ではなくして増大された能力、新しい傾向がさうであります。べての精神活動には脳髓組織を實際に修正しつゝある影響を伴つてゐますから、私達は思想によつて眞實に腦を建設しつゝあつて此の私達自身の腦の増進が子孫に遺傳されるのであります。

我國の或る哲學者は獲得された特性は遺傳されないと強く斷言してゐることを私は知つてゐます。そして其の理論は全く尤らしく見えませぬ。併し私はいつても理論より寧ろ事實を受取りたいのであります。エルマーゲイツ教授は此の理論は事實と一致しないと公言してゐます。彼は犬が緑或は赤七か入つの色合を見分ることが出来るまで訓練しましたかく訓練された此等の犬は顕微鏡下で視覚中樞の腦細胞の大きな増大を示しますが、之は教育が實際の腦物質を創造したと云ふ證明になります。數代に涉つて是等の犬の子孫は其誕生の時その祖先がかく緊張させられなかつた場合よりも視覚



中樞の餘程より多くの腦細胞を示します。

犬が絶體に暗い所で養育されたなら。こういう犬並にその子孫に於て視覚中樞の細胞の大へんな缺乏があります。

此は最も有望な獎勵的な事實の簡略な説明であります。

私達の警戒のために遺傳の法則の暗黒面を見ませう。それは私達自身の非行から來る遺傳的結果に於て、種族を支配する私達の力より見て嚴肅に私達に考へさせます。そこで壓迫落膽を感ずる時には遺傳の福音の方に向き直つて良いものは遺傳されると云ふ事實から希望を得ます。そしてそれ以上に私達の力で自身の品性、性向、習慣を修正する事が出來ますから、私達が受けた依もつと良い遺傳を私達の子供に與へる事が出來ます。そして自我の此改造と一生の内早く始めれば早い程よいのであります。

私は人々が遺傳であるからして打勝つことが出來ないとの申譯で自らすべての形の缺點を辯護するのを聞いたことがあります。それは私達が自由を得る機會のない奴隷

であると公言するのであつて、それを許すことを私は好みません。

「それ故にアダムに於てすべての人は死し、キリストに於てすべての人は生かされるかもしれない」即ち遺傳の法則の下に桎梏せられますが、遺傳の福音の下に私達の鎖は斷たれて自由になります。

エラ、フイーラ、ウイルコックスの遺傳の詩には大へん獎勵となる所があります。

汝の打勝つことを得ざる特性はなし。

汝の惡しき天性は遺傳さるゝと言ふなかれ、

さなくば天賦の特性は汝の全生涯を望みなきものとなして、

相當せざる責罰を招くなり。

汝の兩親と祖父母の背後にあるは

大なる永世不易の遺言なり、それも亦



汝の強き美しき神聖なる遺傳なり  
試みん人のためには成功の確なる力なり。

此の大なる力——意志——を以て汝の缺點を探れ、其が如何に深く性癖のうち  
据ゑられたらんも、

如何に堅く置かれたらんも我は尙更に確く汝に告げん。  
其大なる無限の眞理より來るものなりと。

汝が登り得ざる高貴なる高位はなし、

すべての勝利は未來には汝のものたるべし、

汝の缺點は何にてもあれ、意氣沮喪し踟躕せずとも、

たゞ神の保證の力によりかかれ。

世界は人に争ふこと能はずと要求するの權なし、

汝自身を天國に本源を有する一部を知らば

何物も汝の精神の力の前には立ち得ざるなり、

人の神聖なる遺傳は最善なり。



### 第三十一章 夫の要件

主義や法則の研究に大へんな時間を費ひましたが、今度は此の具體的の場合の議論に向をがへませう。貴女の心を與へた思ふ此の一個の若い男子について貴女は何を決定するが出来ますか？彼の遺傳に於て彼は何者でありますか？彼自身に於て彼は何者でありますか？財産は屢若者の破滅を立證しますから、それを受け繼いでゐるでせうかと尋ねはしませんが、併し彼は正直な勤勉な家族から出てゐますか？彼は一生の公明盛大な成巧をするだらうと思ふ正しい理由がありますか？彼の父は意氣地なしの怠惰者の貯畜心のない人でありますか？若しさうならば彼が貯畜心があり實務的であることはよほど難しいでせう。彼は生命の貴重なること彼自身の責任について眞實の觀念を持つてゐますか？彼は『容易な職』を求めてゐますか、或は彼が受取るすべてのものに對して正しく相當するものを與へやうと思つしゐますか？彼は金持の義理

ある父に補助されるよりも寧ろ正直な手の労働をしたいと思つてゐますか？

家庭を作るときの彼の責任に關する考は如何でありますか？彼はその妻を如何見るでせうか？同等の人、仲間として、或は玩物、寵愛される子供、又は一種の上女中としてゝすか？家庭の管理に於る妻の労働にどんな價を彼はおきますか？彼は彼女に手渡す所の金は彼からの賜物、或はたゞ彼女の仕事の價値の公平な認知、或は家庭の金錢の分け前を彼女に施すことであると彼は考へるでせうか？

彼の婦人の値ぶみは何でありますか？彼女は權利を有つた人、智力と愛情を有つた人、相談せらるべき判断と承認の價値ある意見を有つた人ですか、それとも男子の慰安のために創造され、彼の意志によつて彼女の『天地』に保たれてゐる男子の附屬品にすぎませんか？

彼の氣質の缺點は何ですか、或は彼の身體の弱點は何でありますか？勿論貴女には只今彼は完全と思はれるでせうが、彼は誤謬を免れざる不完全な人間であります。彼



の缺點が貴女によく似てゐるならば貴女の子供に受け継がれるその遺傳の可能性を倍にします。貴女達二人とも肺病の傾向がありますならば、多分貴女の子供は肺病になるでせう。二人ともリユーマチの傾向があるならば貴女は自分の子供の若い頃にリユーマチが表はれることを豫期してよいでせう。若し二人とも『神經病的』であるとか氣質がいらく／＼してゐるとか、二人とも嫉妬の傾があるとか病的で陰鬱であるならば、貴女の子供に於る是等の性質を強めることを能くには及びません。

狂氣、癲癇、酒精中毒及類似の者の如きもつと重大な家族の遺傳があるなればその遺傳を決して冒險してはなりません、と云ふのが貴女の義務であるかも知れません。私が嘗て遺傳について話をしました時聴衆の中に一人の若者が彼の許嫁の女のそばに坐つてゐました。その女は後程聞いたことですが三度癲癇病院に這入つたことがあつたのですが、彼は彼女と結婚しようと思つてゐました。

私は一人の牧師を知つてゐますが、その人は自分の家族に著しい精神錯亂症があ

るので生涯を獨身生活に一身を捧げたといふのは賢いことであります。

まだ生れてゐない而かも多分決して生存しないかもしれない所の子供に貴女が負うてゐる義務の此の反覆に貴女は少しいらく／＼して恐らく私が少女達の言ふのを聞いた様に「あゝ私は子供を有つ積りではありませんと云つて、又恐らくかう附け足すでせう」「人は結婚しても子供を有たないで眞に自分達だけでは幸福でないかも知れんと云ふ理由が分りませんと」と。

そんな陳述に含まれてゐる總てのことを貴女が了解しないのは不思議であります。或る結婚した人々は子供を持たないで比較的幸福であるのは眞であります。私達が彼等の心を讀むことが出来るとしたら、恐らく彼等の生活の一大渴望は子供を授かるといふことに向つてゐると云ふことが分りませう。

兩親たることの悦びを知りたいと望むのは自然であります。兩親たることに伴ふ、注意、愛、心配、犠牲、柔和、忍耐を通して家庭に於て個人の教育は最も圓滿完全に



出来るのです。

此等の責任を許容する好意を持たないで結婚する少女は正しく責任を負うたら彼女に最高の發展を齎す所のものを喜んで犠牲にします。若し彼女が母たることを故意に忌避しようと思ふならば、彼女は自らを道德的危険の地位に置くのであります。と云ふのはそのやうな免除は罪科を犯す以外には多くは得られないからであります。夫婦が子孫に或る不幸な遺傳を與へないと云ふ價値ある動機に動かされるならば、又單に精神上、心靈上の伴侶として神聖に生活して行くだけに高尚な目的を持つてゐるとすれば、彼等は兩親となることを豫期しない所の結婚に於て正常なることを證せられると私は信じはしますが、頻繁ではないと申します。併し肉體的快樂を得てその正常なる結果を避けようとする總ての企は健康の脅威であり徳性の頹廢であります。

少女は其愛人の觀念、思想、主義、目的に關する總てのことを如何して知るのですか？ 貴女が考へる此等の多くの事は結婚後までは知ることが出来ず其時は遅すぎます

それは眞實であります。それ故に賢明であつて遅すぎない様に只今相互の習慣、特質、意見、好尚について貴女が出来る總てのことを知りなさい。實務のことについて話しなさい。貴女の愛人は家庭を作る時の妻の勤勞價値の金錢上の承認に對する彼女の權利に關して如何な觀念を持つかを見出しなさい。妻は何も儲けないうで彼の金の中から妻に與へるのは返しをしない進物であると彼は考へますか？ 私の知つてゐる或る若い婦人は結婚前は自立してゐたのですが、夫に金を請求する事を大へん怯しました。それで彼女は結婚の晴衣が破れかゝるまでそれを着てゐて、彼女自身の貯蓄が費ひ盡された時は金無しでゆき、五ヶ年間黙つてゐましたが、夫の若い牧師は彼女に何が必要であるかどうかを尋ねることを決して考へず、彼女がみすぼらしくなつてゐるのに決して氣が付きませんでした。遂に彼女が勇氣を鼓して彼女の要求を告げたとき、彼は自分の考と觀察の足らなかつたことを大へん後悔しましたが、彼女が何故そんなに金を貰ふことを躊躇するかを了解することが出来ませんでした。「ナニーそれはみんなお



前のものだよ。お前は夙に自分のものに成つてゐるものを欲しがつてゐた許だ」と彼は言ひました。そして多くの若い夫は丁度此の様に鈍いものであります。それ故にそんな無頓着のありさうなことを防ぐために必要な教訓を前以て受けなければなりません。若し貴女が男の姓を名乗る人として又男の財産の配當者として信用される價値があるならば、貴女は彼の實務の經驗に關する知識の重荷をも亦分けて貰つて、貴女の愛と注意と勤勞によつて彼を助けて儲けさせた所の金の消費に於て彼の所有權を經濟的に守つてやる責任を帯びる價値があると云ふことを了解して貰ひなさい。

若い婦人は未來の夫の一身上の習慣を幾分知つて居るべきだと思ひます。彼は新鮮な空氣を好みますか、或は夜は窓を密閉するのを望みますか？彼は神を信ずる様に清潔を尙びますか？私は二人の男女が六週間の相識の後相互の來歴一身上の習慣我儘主義を何にも知らずに結婚したことについて一寸讀んだことがあります。其男は處方箋を書いてくれる醫者を一度に五人ももつてゐて絶えず藥餌に親しんでゐる立派な憂鬱

症患者と云ふことが分りました。彼は相思の仲であつた頃のやうに妻の眼を見る代りに彼自身の舌を見、寸暇を見て何時も其の脈搏を數へました。彼は新鮮な空氣を非常に好み、沐浴を猫の様にいやがりました。その女は外氣中に生活し毎日朝湯をつかつてそんなにしない人を酷く嫌ひました。其の著者は「彼女は荒々しく話した、湯をつかつた、窓を開けた、彼は叫んだ、湯を使はなかつた、窓を閉ぢた醫者を呼んだ」と書いてゐます。其家庭の不幸を描くには及びませんが。疑もなく誰が彼女の愛人に關する此等の事實を探ぐるやうにと夫となく云つたら彼女は非常に怒つたでせう。併し彼女がもう少し少く浪漫的でも少し多く實際的であつたならば、結婚契約は外の誰よりもつと親しく彼女と結合される所の人に彼女を一生涯結び着けることを記憶し、此の生涯の結合も夜も晝も、絶えず、永續的で悪い氣息や不快な習慣の如き小事で取り消されるものではないと云ふことを知つて居つたならば、多分彼女は彼等が生涯に定まつた人となる前に嫌惡の起り得べき原因を發見するのは小事件でない



と考へたでせう。

そこで又恐らく彼女自身は自分の習慣に一層の熟考を與へたでせう。眞實の愛は大層忍耐するでせうが、併し時々不檢束や衣服又は室についての不注意、或は身體や氣息の美しさ芳しさの缺乏の前には愛も死んでしまいます。貴女が夫に澤山要求するならば、夫は丁度それだけのことを貴女に要求する権利があります。愛人としての彼が寧ろ知らなければよいがと貴女が望む様な習慣が貴女にあるならば、夫としての彼が其を知つて居ないといふ事が更に重大であると云ふことを信じて下さい。それ故にそれ等の事から身を避けるために結婚前に貴女の時を有効にお使ひなさい若し愛人が彼の妙齡の美しい愛する人が出て去つた其室に汚れた着物、取崩した寢台、靴、長靴下長上衣などが床や椅子の上にごつちやに積重ねられて不注意と不整頓の印を有つてゐるのを見て迷を醒されるならば、その不快を見るのみならず分け前を取らねばならぬ夫に對して其結婚式はそんな室をもつと心を引きつけるやうにはしないことを記憶しなさい。

お互の個人的特性の知識に加へて、彼女の結婚を申込んだ相互關係の義務と責任に關してお互の觀念の了解があらねばなりません。私は近頃ある若い婦人から一通の手紙を受取りました。「二人の許嫁の若い者は彼等の未來生活に關してどんなに自由に話してよいとお考へになりますか？ 彼等の未來の關係、兩親となることの可能及責任等を議論するのは彼等にとつて隈らなことではないでせうか？」と尋ねて來ました。

それは若い人々に由て決るものであると私は答へます。彼等が間違つた觀念を有つてゐるならば、科學的智識を少しか或は全く有つてゐないならば、彼等の考が惡い心的繪畫で充されてゐるならば、彼等は どうして賢く有益に話すかを知らないでせう併し此の二人の若い人は聰明であり、科學的に教育を受けたキリスト信者であります。彼等の心は純潔で、彼等の標準は高く、彼等の動機は立派なものであります。彼等の嗜好の起るだけ自由に話す様に見えます。上品な良く選ばれた言葉で述べられる結婚



の實體と責任、熱誠なる思想の交換についての打明けた眞面目な會話——その者の嚴肅によつて快樂の國土から科學と道德の氣高い領土に措しあげられる所の會話——よりも愛の熱烈な斷言を私請いなりに抱擁、愛撫に耽けることに長い幾夜を費す方が實際更に猥褻であり危険であると私には思はれます。

### 第三十二章 婚約

貴女が妻となると云つて與へた約束を象徴する指環が今貴女の指に燦として光つてゐます。貴女は婚約の身であつて今や此婚約木間中貴女自身の行動に關する疑問が貴女の心に起つてゐます。即ちどれだけの特權を貴女は愛人に許しませうか？ 貴女は互に一生を契つてゐますから相互にもつと個人親密を擅にすることを許されないでしようか十分なる謹慎を以てこれまで許されなかつた愛撫接吻を許さないでよいでせうか？

無論貴女は冗談に婚約することを許す様な、又婚約が成り立つてから破れても少しの後悔もない程婚約を重大なものと思はぬ様な愚かな婦人ではないと私は思ひます。良心の苛責を受けずして、更に大きな自由の行動を正當であると感ずる爲に婚約をさへする少女達を私は知つてゐます。そんな婚約は社會習俗の一般道德を犯さないに



せよ彼等は確に道徳を破つてゐます。

少女達がそんな行爲の總ての危険を知ることが出来ないのは尤であります——彼等がかくして其の愛人に對する誘惑の源泉となり彼等自身の安全をさへ危くするかも知れないと云ふことを會得しないのは不思議でありませぬ。

併し貴女の婚約は誠實なもので貴女の愛は熟知の上に築かれた眞實なものであります。貴女達は相互の完全信用と相互の尊敬を有つてゐます。今は貴女の伴侶を取巻いてゐた多くの制限を投げ棄て、お互に明確に其の愛情を表はしてはよくないでしようか？

私達は屢長い婚約をしないやうにとの若い人達への忠告を讀みます。そして其の與へられた理由は長い婚約は自制と云ふことを餘りに多く強請し、餘りに大きな神経の緊張であり、餘りに危険に満ちてゐるといふのであります。私は此所にイートン博士の數言を一寸引用したいと思ひます。

「婚約に反對な性慾の議論はやめなさい。そして私達は皆意志と目的の教養を始めませう。それは一番弱いものでさへも力の擁護者、彼自身の運命の裁決者となすことが出来ます。そして私達の性慾にこう言ひませう。汝にこんな遠い所に來させるが之から遠くは來てはならず、又汝は汝の主人の生涯に這入つてくるかもしれない所の最もよい此世の伴侶を汝の主人に差出がましく拒絶してはならない。それは熱烈な詩的な愛人が自ら初めて考へることを許すよりも遙に難しい仕事であるかもしれない。併し一番困難な戦争こそ一番戦ふ値があります。そして私達が若し人生の争闘に眞向に立ち向つてそれと最後まで男らしく戦ふ代りに順序正しくそれを逃れるとすれば私達は男のどんな人にふさはしくなるでせうか？ブアチエ博士の説はかうです「婚約の上古の風習と云ふものは品行の純潔と夫婦の幸福なる交際の保護である。此の制度はギリシヤ、ヘブライ、ローマ及中世紀時代に知られた。獨逸ではまたその詩的な道徳的な性質を保つてきてゐる。若い人々は屢彼等の結婚前何年も許嫁にされるのであ



る。かく許嫁にされた男は彼の高潔な愛に充ち／＼た心と以て彼の教育を完成するために、科學或は藝術の研究をなすために商業を覺てる丁稚奉公をするために、男らしい生涯を送る準備のために一時は我を忘れるのを見るのである。彼は無垢のまゝの魂を以て大きく且つ堅固になつた理性を以て彼の許嫁の女の許に歸つて来る。其時二人は結婚の嚴肅なる本務に對して圓熟して居るのである。

許嫁に依て清められた高潔な愛は仕事の最中に培養されることが出来る。それは労働を軽くし退屈を消し人生の地平線を照す。それは若い男の心に自ら社會に地位を作る男らしい勇氣と高尚な智識を振ひ起す。婦人の心には價值ある配偶者良い忠告者となる爲めに彼女自身を完成せんとの高尙なる希望が起るのである。

青春の血氣盛んな時期の間はそれが心と身體の處女の純潔を保つ唯一の方法である。彼等の心に強い價值ある愛を折よく有つてゐる若い男が滅多にない事ではあるが卑しい愛情のうちに、魂のない美に、美のない淫亂にさへ自ら御供を供へ、一日のそれ

らの關係で彼等自身を汚すだらうと誰が信しようか?』と』。

エマーソンの語に「けれども若し餘りに物質的の者と交り過ぎたが爲めに魂が野卑になつて身體内に其満足を失つたならば、身體は美が提示した約束を果すとが出来ないので魂はたゞ悲哀の外何も刈り收めなかつた。けれども若しも美が彼の心に組立てた所の此等の幻想と暗示との諷示をうけいれて魂は身體を通して人格の一舉一動を稱讚することをせず。そして愛人等は談話と活動とのうちに相互を默思するならば、彼等は次第々々にその愛を燃して遂に眞實の美の宮殿となるのである。そしてその下卑な愛情を消滅した此の愛によつて恰も太陽は爐の上を照して火を銷すが如く彼等が純潔になり神聖にされる。それ自身に於て優秀な、寛大な、謙遜な、正しい所の者との會話によつてその愛人は此等の高潔なる品性をもつて温かに愛するようになりもつと速に悟る様になる。それから彼は一人の高潔なる品性を愛することから總ての人の高潔なる品性を愛することに移つてゆく。そして一人の美しい魂は彼がすべ



ての眞實な潔白な魂の交際社會に出入する戸である彼の仲間の特殊な社會に於て、彼は彼女の美が此の社會から得た所の如何なる汚點をももつて鮮明に見る視力を得てそれを指摘することが出来る。そして此には彼等が今では氣を悪くしないで互の有てゐる缺點故障を指示して其の同じ缺點故障を匡正する爲に總ての救助と慰を與へることの出来ることと云ふ互の悦びがあるのである。そこで多くの魂の中に神聖なる美の特性を視つゝ、各の魂の中に社會で得た所の汚點から神聖なるものを分拆しつゝ、其の愛人は此の創造されたる魂の梯子の段によつて最高の美にまで神と智にまで登るのである。

そして此は全く性的關係の思想が雙方の心の中に結婚の觀念を構成するときには結婚式はすべての制限を撤去すると想像されようといふ意味であつて、満足の唯一の制限は情慾の制限でありませう。此等の事情の下にあつて長い婚約の非常な親密は恐らく精神上身體上の重税でありませう。その理由は訓練された自制はたゞ一時的であると

感ぜられて、結婚式が擧げられた時には最早それは必要ではなくなるでせう。

併し結婚の觀念がもつと高尚であるならば性的關係が生殖といふ一番高尚な目的に捧げられるならば、又結婚が自ら課した所のもの以外に抑制はないだらうからその時は更に困難な所の自制に對して附加されたる機會にすぎないと感ぜられるならば、婚約は機會が更に重大だから更に意志の力を要する所のより親密な關係に對しての漸次の準備の時であると感ぜられるでせう。

此等の條件の下に愛人達の結婚生活に於て愛情に、優しい禮儀に、最も親しい仲間たることに、最も愛恰ある表明に永續しつゝあるすべてのものは肉體的和合なくしてあり得べきものであると認める所の理想に狙をつけてゐるでせう、肉體的和合はそれだけでは快樂の第一時的のものであります、制限のない耽溺に於ては激情の最も權柄的なるもの、肉體的勢力と精神的勇氣の蕩盡及び絶對にすべての眞實の愛を全滅することになります。



男女の關係が性的機能の實行に基いてゐないにせよ男女各々の方に異性を引きつけ  
る此の不思議な力の存するのは何故かと貴女が問ふならば、私は性はその局部的表現  
より以上であると答へます。性は身體に存すると同じく精神にも存してゐます。それ  
故に性慾の力は男性に於ては勇氣、勢力、冒險に表現せられ、女性に於ては誠實、克  
己、禮節に表現せられるかもしれませぬ。性慾の引力局部的表現にも種族繁殖の創造  
力にも限られないで、それは男女の智的仲間に刺激を能へて、より高尚な理想とより  
崇高なる抱負の創造となりませう。

貴女の愛人に對する態度を心にきめてから。婚約期間中貴女の家族に對する貴女の  
態度はどんなであるべきかを考へてませう。貴女は家族の他のもの程に鋭敏に家底の  
團聚から分離を感じないのが自然でせう。貴女達二人は互に親密になるために大へ  
ん心を奪はれ、思想の交換に大へん忙しいので、貴女の家族のうちに起つた變化は忘  
れ勝であります。貴女は自分達二人は勿論他人の聞いてゐる所で自由に話すことは出

來ぬから、密談の特權を許されるべきであると思ひます。之は眞實であります。貴女  
は批評や調戲の恐れのために壓迫される感じを持たずに、詩歌を吟誦したり拔萃した  
り互に心の寶物を開くことの出来る所の閉籠の時間を持つべきであります。併し貴  
女はまだ貴女の家庭に義務を負うてゐます。疑もなく貴女のお母さんは今では貴女  
がお母さんの幸福に必要である程貴女の幸福に必要ではありません。お母さんは貴女  
のことについて最も優しい憂慮を以て考へてゐます。貴女のゐないのを淋しく思ひ既  
に已むを得ない別離の淋しみを感じ始めます。貴女が能く反省するならば別離は必要  
より早く始まらないといふことを注意するでせう。それから又貴女の両親は貴女が其  
家族に紹介した此の新しい人と親しくなり、その人は家族の人達を知る必要がありま  
す。貴女が彼に貴女を全く獨占することを許さぬこと貴女が家族に對する貴女の義務  
を認めること、及び彼にもまたその義務と且つ適當な禮儀と注意を彼等に示す所の彼  
の義務とを認めることを貴女が望むことを彼が知つても、それだけ貴女のことを少な



く思ふといふことは全くありません。彼は貴女を全く吸ひとる、家底の團欒から貴女を採り去るのではありません。彼はその團欒に入つて来てその一員となること恰も貴女が彼の家族の一員となる如くであります。彼は貴女が彼を知る以前に長く彼を愛した女達の息子であり同胞であること、彼はまだその女達に注意と思慮深き愛情ある禮節を負うてゐると云ふことを記憶して置く必要があります。

決して自ら彼の母や姉妹に嫉妬を感じることを、許しなされるな。彼の愛情ある思慮深い息子であり同胞である事實は幾分か彼が愛情ある思慮深い夫となるといふ保證であります。

私は此の忠告にもう一言つけ加へませう。自分にも彼のことに ついて嫉妬を感じることを許しなされるな。嫉妬は利己の精髓であつて之ほど幸福を破壊し之ほど邪惡の傳染力に満ちた激情は外にありません。若し貴女の愛人が信頼され得ないならばすぐに婚約をやめるのが賢いでせう。若し彼が信頼されるならばその信頼は絶對であるべき

であります。貴女は彼に貴女を獨占することを許してはならず、又貴女は彼を獨占しようとして試みてはならないと私は言ひました。社會には貴女自身の外に他の人々が居り貴女に侍べる仕事より外の職業があります。若し貴女以外には誰にも敢て話さない貴女以外には何物も思はないと彼に感ぜしめるならば、彼はその束縛の下に不平を起し桎梏となりつゝある絆を斷ち切らうとの希望を感じ始めませう。若し貴女の承認された愛人でなかつたならば、若し貴女が彼の愛を得んと熱望しても貴女の力について少し不安心であつたならば、彼は一寸の間貴女を忘れたように思はれたので、貴女は涙と叱責とを以て彼に會はないで、直に他の人が出来るより以上に彼の眼に貴女自身を引きつける所のあらゆる出来得べき努力をなすべきであります。彼の従順が貴女に誓はれて居てさへも、只今その同じ策略を用ふるが賢いでせう。他の談もこれ程氣に入るものはあり得ないと思はれる程心を引きつけなさい。他の談もそんなに賢く頓智があり同情があり全く惚れ惚れする様に愛らしくは有り得ない程に心を引きつけなさい。



い。貴女以外のすべての事が忘れられる様に心を引きつけなさい。そして彼が貴女に對する信實を履み誤ることが決して出來ぬ程絶対に彼に信實のあることを信じなさい。或る悪行爲の一つを責めることは丁度それを爲すことが有り得ることを彼に暗示する方法であるかもしれないと云ふことを貴女は嘗て思つたことがありませんか？若し人が貴女を兎や角言はずに貴女を信用するならばその信用は眞實であるための不斷の暗示であり、疑念は疑はれる値のある行爲の暗示であります。

貴女達は相互に信用しなければならぬ。さうでないといふと未來の愛と幸福に對する確乎たる基礎を持ちません。如何して幸福に結婚に生きてゆくかを知るのは大さうな常識を要します。貴女は賢く選んだかもしれないが、その人は正直な潔白な親切な、知識ある基着教信者であるかもしれないが、人間に違ないのでから完全ではありません。彼は缺點、性癖氣分と氣質とを持つて居ます。そして彼は恐らく貴女が嫁ぐを俟たないでそれ等のことを現し始めるでせう。意見の相違、願望の齟齬判断の衝突が

起るでせう。今こそ貴女の策略をあらはす時であります。如何して敵對をしないで反對意見を表はすが、自我の愛よりも更に大きな愛のために如何して願望を放棄するか如何して不愉快な議論をせずに主義に執着するか、要せるに如何して卑屈、煩瑣な仕方をせず、氣高く婦人らしくあるかを學ぶ好時機であります。婦人は「自己發達のためではなくして無我なることのために恒久に善であり本能的に的確に賢であらねばならぬ」といふラスキンの句を記憶してゐませう。そしてそれが最も高尚な發達でありませう。

此の忠告の或るものは若い婦人と同様に若い男に與へられるべきだと貴女はきつと思ふでせうが。私も亦さう思ひます。そして私が貴女の愛人に話してゐるのなら私は多くの警告を與へることが出来るのですが、併し只今は彼が聞くに及ばぬ事を貴女に話してゐますので、若し機會があつたら彼に言ひたいと思ふことを貴女に言ふには及びません。貴女は貴女自身を訓練するのでにつて彼を訓練するのではありません。け



れども私は最も高尚な最も善良な總てのものを彼のうちに發展させるのに彼を支配する貴女の力について貴女を無智にして置きたくはありません。貴女は常に彼に最高の理想を保たせねばなりません。彼は決して彼の標準の低下をもちこたへるだらうと想像する程貴女の愛重に絶對的確信を感じなかつたでしょう。貴女は相互の前では少し氣取つた態度をとつて來ました。疑もなく貴女はこのことに氣付かなかつたですか。貴女達がお互の心を獲ましたから、貴女は氣を弛めることが出來ると時々感ずるかも知れませんが。併しこれは危険な誤であります。貴女はいつものやうに思慮深く禮儀正しく注意深い態度を續くべきであります。貴女は結婚を求むるために機嫌をとつた頃斯くありたいと試みたり、斯くあると現した總てのこの通りに現に今もあるやうに努力すべきであります。貴女はさうしてさへちつとも完全過ることはないでせう。嘗て婦人の或る集團に話した時、私は妻と云ふものは彼女の愛人の頃の彼の道徳上の品格と同じ高さに彼女の夫の道徳上の品格を熱烈に要求すべきである。又他の婦人

とのよりも彼女との彼の會話が締りなくなること許してはならないことを主張しました。處が一婦人は私をあまりに嚴格すぎると思ひました。彼女は男と云ふものは内では仕たい放題にすることが出來るのを喜んで、自分の内での話に締りがなといふ彼等の權利に對する妻の干渉を怪しからんと思ふものであると云ひました。私は答へました。家庭は男だけのものでもなく、又女だけのものでもありません。それは彼等共同のものであります。各がその空氣、食物、水、道徳的雰圍氣を不潔にし或は毒してはならぬと命ずる權利を有つてゐます。そして家庭の思想の雰圍氣を汚濁することを許す妻は彼女が食物に毒の入れられることを許す如く有罪であります。男が彼女の疑はしい經歷を話すことを許さない所の少女を稱讚する様に、彼は談話や行爲によつて彼女の面前で彼自身の品位を落すことを許さない妻を尊敬しませう。妻が愛を保つ秘訣を知つてゐるならば愛、はその屢無くなることはないでせう。そしてそれは主義の犠牲によつてでもなく、又涙まじりの叱責非難によつてでもなく



最高の衝動に眞實であることによつてとあります。そして誤りやすいことに對する總ての合理的許容をなすことの出来る常識を有つと同時に道德的標準の低下及び故意にその最善に届かぬことを許しません。

### 第三十三章 結 婚 式

私の友が云ひました。

盛大な結婚式があることになつてゐる。

限りない大騒と虚飾を以て、

十六人の美しい花嫁の附添女が一行に立ち並んで、

十六人の若い花婿の附添女が一人づつ、

各附添女の側に立つて其虚飾を補ひつゝ。

それから大へん華美な招待宴會がある。

すべての種類の華麗な器具、  
輝く銀器と眞澄の鏡、



熱帯の果物と上等の古葡萄酒、

馥郁たる花と、嘹唳たる絃楽器から

引き出された妙なる音楽をもつて。

多くの少女の心のうちでは結婚式はたゞ此の公開の虚飾、贅澤な衣裳の陳列、高價な贈物の受納を意味し、結婚の準備は單に贅澤な嫁入道具を作ることとを意味することがあまりに屢であります。人は一般に人生の莊嚴なる義務に就く若い人々の適當な事に關して尋ねません——彼等の前にある所のものに關して如何によく教訓されたかを尋ねません。併しその質問はすべて衣裳と贈物と儀式についてあります。それで若い婦人の考は殆ど他のすべてのものを排斥するまでに此等のことに集中してゐるのは不思議でありません。誠にそれは健康の障害となり眞の幸福の減退となる程であるかもしれない。その未來の夫は婚約の女が彼にほんの少しの時間しか與へない程

裁縫に買物に仕立屋との會見に心を奪はれ、此等の僅の時間は結婚の幸福の理想を以てよりも衣裳や身の裝飾の考を以て専有されて居ます。

恐らく彼女はもう直にすべて彼の者になるだらうと云ふ口實を以て、彼の訪問の度敷を減すことの言ひ譯をさへします。それで彼は取り残されて一人淋しく獨身者の最後の時代を費して、衣類は愛以上であると感じさせられます。もつと悪いことは結婚の當日彼は花嫁が少くとも一時的に病人である程に嫁入道具の準備の爲めに疲勞し精神的に困憊してゐるのを氣にかけるかも知れません。花嫁が彼女の結婚式の準備のために大へん疲れきつてゐたので、その新生涯に快活、歡喜、美麗を齎すどころか、彼女は病氣、心配、注意を齎して健康と、活氣と、快樂を感ずる力とを豫期する權利を持つた夫の忍耐と勤勞とを直に要求した様な花嫁を一人ならず私は知つて居ます。私の知つてゐた或る常識的な少女は彼女の結婚前數ヶ月の頃こう云ひました「私は私の新生涯に健康の殘餘、亂された神経系統、ぼろ／＼の氣質を齎さうとはしてゐま



せん」と。そして言葉をつゞけました。彼女の裁縫はだん／＼に出来て結婚前數週間は全く形付けられました。買物と着物仕立は決して散歩と馬車合乗、無駄話と月下散策に干渉することを許されませんでした。「私達は此の経験を繰返すことは出来ないでせう」と彼女は賢げに云ひました。それで彼女の愛人は彼女が常に其の交際其の思想を彼に與へる用意をしてゐるのを見出しました。彼女の嫁入道具は精巧でありませんでした。彼女の結婚の晴衣は質素でありましたが、それを着てゐる彼女は快活、健康、歡喜に満ちて朝の花の如く輝きました。

彼女は他の點に於ても賢明でありました。彼女の親密な友達だけが結婚式に招待されて、此の人達に彼女は次の様に言つてやりました「私が招するのは皆さんであつて皆さんの贈物ではないといふことを感じて頂きたうございます。若し皆さんの愛情が皆さん自身のある簡短な記念品を私に下さる様に皆さんに強ひるならば、それは肝に銘じて大切にいたしませう。けれども私は皆さんがそれは期待されてゐると思はれ

たがために最も高價に買はれた繪とか或は最も贅澤な銀の細工物よりは、寧ろ皆さん御自身の手で作られた針さしたとか御自身で彩られた小さい花を頂きたいのでございます。それで皆さんが御出になる時若し贈物は持つて来られずとも皆さんの愛と祝福を持つて来て下されば、それが最も貴重なる寶であると私は感ずるのでございます」と。

凡俗の好奇心に對する贈物の陳列もなく、結婚式後このそり處分される對のバターナイフや漿果匙の蒐集もありませんでした。贈物は少しかなくて高價ではありませんでしたが、各それ自身の愛情の身の上話を語りましたので實際に意味がありました。

此の常識的な若い婦人は彼女の結婚式にも亦他の革新を採り入れました。彼女は新婚旅行の提議に耳を傾けようとしなかつたのです「私は見知らぬ人達から注視され批評されるのを好みません。何處か海岸か山の中の静かな場所へ行つて二人で自然と共に暮しませう」と彼女は云ひました。後年彼女は屢云ひました「私は汽車に乗



つての小旅行やホテルの滞在から與へられた處の何彼につけての幸福なその頃の光景を私の記憶から漏したくはありません。私達は「狂亂せる群衆」の中で知ることの出来なかつた相互の心情を知る時間と機會とを得ました。そしてそんな新婚時代にはさやうな孤獨のみが齎すことの出来る處の眞の仲間として自然と自然の神と共に私達は坐つたのですから一層眞實に互に愛したことを知つしゐます」と。

私は彼女のことと彼女の經驗に對する悲惨なる對照について思ひ起させられない様な當世風の結婚式の虚飾をまだ決して見ません。當世風の結婚式の場合には二人の若い人は赫々たる光明に照され花の雨につままれて結婚し、數百の見知らぬ人々の好奇心を持つた眼に見送られて新婚旅行をしました。一方に新聞は花嫁の衣裳と美麗な花婿のネクタイとスボンについて花々しく記載し、其二人の寫眞は「新郎新婦」と標札を下げられました。二年のうちに此の花嫁は健康を害し悲歎にくれて彼女の兩親の許に歸へりました。

金婚式には五十年の幸福なる結婚を眞に祝賀する美點があります。併し人生がすべて試みられてゐないとき、恐らくその二人の若い人が彼等の前途に何物があるかについて一切知らないで、多分あまり互に親密ではなくて激情の竦動を愛の堅實なる高潮と間違へたときには、其機會をさらびやかな事と虚飾から全く離れて、其の心を人生の最も深い神秘の尊敬の中に常に立たしめる所のその深い意味に充ちた最も嚴肅な意味の一つとなすがより賢いように思はれます。

あゝ立派なる若き花嫁よ、此の少女を汝の花嫁として迎へ、  
彼女の指に飾りなき金の指環を指してやり、  
此等の輝く花綵を彼女の圍りに投ぐるのは  
瑣々たることと思はるべし。

されど汝は未來がかく經驗なき此の人生に  
汝に何をもちたらずかを嘗て考へしことあるか？



如何に汝の氣質は屢試練さるべきか？

汝が痛風にかかり且つ老衰し、

汝の美しき若き花嫁の麗しきほゝ笑む顔は

蒼白く瘦せこけて且つ皺がより

またはだらしなき口喧しき女となる事を汝考へしことあるか？

さて美しき花嫁よ、此のうれしき結婚式の日

好奇心にとめる群衆にとりまかれて、

人生は常にかく陽氣なるものと想像するか？

働き得るか、待ち得るか、如何に祈るべきを知るか？

忍ぶことを得るか、さて聲高に泣くことはなきか？

悲しき苦痛のベットの傍に一定時間看護し得るか？

重みにたへ忍耐しまた寛恕することを得るか？

希望が空しきときさへも愉快に希望を持ち得るか？

希望が絶へ果て、汝も死にたしと望むとき

猶汝は生くるが正しと感じ得るか？

あゝ感ずべき嚴かなる感動しやすき時に

かくも深き意味ある誓を汝はなしたり。

されば日光に聚雨に汝を導き汝を護る

神の力をたゞ汝は要するのみ。

難儀苦勞の來るありて愛のかよはき花はつぶさるればなり、

汝はその如何にして來るかを殆ど知らず。



けれども戀人よ、愛程征服し難い生活力をもつものはありません。併しそれは眞實の愛でなからねばなりません。自愛や感情的なことや激情であつてはなりません。愛の名の下に假面を被り極めて弱い逆風に遇つてさへも萎縮する様な假装の情緒であつてはなりません。

愛い財産といふ温室にのみ成長する外國産植物ではありません。それは掩護を要せぬ丈夫な植物であつて、荒涼たる地を綠葉を以て掩ひ、山頂の雪中に輝き、晝と同様に夜に花咲き、缺點をかくし、零落に逢つて背かず、早魃暑熱寒冷に堪へるものであります。

私の知つてゐる或と婦人は不愉快な特性、特異質或は固陋の風でさへ存する所には結婚は決してあるべき筈はないと云ひます。併し若し私達がその主義で行くとすれば少数の人しか結婚し得ないでせう。愛は求婚する頃は盲目であるが婚姻の後は虫眼鏡をかけてゐるといはれます。しかし眞實の愛は決して盲目ではなくして眞の相對的價

値を判断することが出来、絶大なる完全を以て計るときはその軽い缺點を零と見なすでせう。誰が醜い風變りの妻に忠實な男を見なかつたのです？誰が本來潔白で眞實でありませんたか？

「私の夫は黄金の心をもつてゐますから、たとへ藥鐘頭で斜眼であつても關ひません」と一婦人は言ひました。

眞の愛は盲目ではなくして深い鋭い眼識を以て人類の不完全の被せられたる着物を貫いて天賦の自我を洞察します。そしてそれは價値ある眞の内部にある自我を認めますから、すべての事を望み、すべての事を信じ、すべての事に耐へ忍んで、決して失敗はしません。

性と自我（若き婦人の爲に） 終



大 同 館 發 行 男 女 問 題 書

一條忠衛著	◇男(女)道徳總論	全一册
一條忠衛著	◇男女の性より觀たる社會問題	全一册
本間久雄著	◇エレンケイ思想の眞髓	全一册
羽太銳治著	◇性慾教育の研究	全一册
土田恭輔著	◇生殖器崇拜教の話	全一册
一條忠衛著	◇男女問題講話	全一册
一條忠衛著	◇婦人問題 より見たる 女大學批評	全一册

大正拾壹年七月十七日印刷  
大正拾壹年七月二十日發行

性と自我

正價金貳圓

著 作 者 井 上 庄 三

發 行 者 阪 本 眞 三  
東京市神田區表神保町七番地

印 刷 者 吉 田 松 次  
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

印 刷 所 株 式 秀 英 舍 第 一 工 場  
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地



發行所

東京市神田區表神保町七番地  
振替貯金口座東京八七貳番

大同館書店



□ 稻毛詛風氏新著 □ (著者自信ある感想評論集)

# 文化と自然

四六判最上製美本  
金壹册 四百頁箱入  
正金貳圓參拾錢  
送料十二錢

## 第二版

人本主義、文化主義の現代に於て吾々の興味は偏に人生と文化とに傾くのは極めて當然のことである。併しながら人生と文化とは直ちに實在ではない。而も人間の生活は大實在と合一した時のみ殆めて眞に永遠的普遍的のものとなるではないか。本書は斯くの如き見地に立つ著者が文化と自然とに對する觀察批判と感想とを披瀝したものである。人生を創造と見、自然を神秘と觀する著者の透徹した文化觀自然觀は必ずや眞生活の追求者に對して新緑の朝の如き清新にして力強き印象を與へるであらう。

(内容目次)：第一編 人生・創造本位の人生觀：國民思想の將來：民本主義の精神：國民生活の改造と民本主義：政治の精神化・理想化：生活態度としての個人主義：自我の正視：一人の力：深く考へよ。求むる心と與ふる心。詩を求めよ：勞働を樂しむ心。愛と責任：愛と聰明：第二編 藝術：文藝の價値を高めよ：自然主義より人生主義へ：批評の價値：批評家の罪惡：文藝批評の根本義：文藝批評の標準：文壇に對する批判と要求：性美の醇化：第三編 自然：神秘の藏庫としての自然：雪の木崎湖：廣田紀行：關西紀行：若草は萌え初めた：夏四趣：夕顔の花咲く下に野風呂哉：夏の思出：新緑：私の好きな初夏の郊外・秋：

□ 東京帝國大學 文學士 今井政吉氏新著 □ □ 寫眞圖入

# 好評 三版 露西亞文明記

四六判最上製  
美本五百頁  
金貳圓五拾錢  
送料十二錢

### 批評一斑

昔から露西亞は世界の謎であつたが、歐洲大戰勃發以來世界は更に一層多くの興味を以て同國を見るに至り、革命勃發後は更に愈々世界的興味の焦點が同國に据ゑらるゝに至つた。そこで我が國は、隣國的關係を有する特殊の立場にあるだけ一層露西亞に對する興味を深く感ぜざるを得ない。茲に於てか露西亞研究は實に我が國探險界の一大潮流となり來つてゐる。朝に夕に露西亞に關する記事の雜誌上新聞紙上我等の眼に觸れぬ日は無いといふ有様である。が遺憾なことには未だ會て細りたる手頃の冊子にして露西亞の國風全體を描けるものが無かつたのに、茲に

## 解體せる露國の前途如何?

これ何人も知らんと欲する所也。

今井文學士の本書を得て其の渴を癒やすを得たるは我等の心より欣幸とする所である。今井氏は數年間露西亞に滞在して其社會状態を具さに研究して此程歸朝せられたる士にして、其の記述する所一々實地の觀察に基けるものであれば安んじて信頼することが出来る要するに、露西亞の國風社會状態等全般に亘つて精細なる記述をせる點に本書の特色を見、露西亞に興味を有せる人士の逸すべからざる書であると共に各種學校の教授參考資料としても隨に有益なる著書である。



文學士 高森良人氏新著 (文明史的觀察に成れる書)

# 新刊 滿鮮支那旅行の印象

袖珍最上製美本  
全壹册三百五十頁  
正金壹圓五拾錢  
送料十二錢

滿鮮支那を歩いて來た著者の頭には幾多の問題のみが残されて居る。古典を讀んで描いて居た支那も新聞雜誌を通じて想像して居た滿鮮も共にその真相とは餘程な距離があつた。旅行!! それには聰明と發見とが必然的に産み出されて行くものである。而して過去現實若くは時空間に渡りをつけるものは何と云つても旅行が最も捷徑であらう。——惟ふに政治産業乃至教育の方面も思想藝術的方面も支那位ジャバナイズされた國はあるまい而もその何れのものに對して文明史的の見地から正當なる批判を下したものは差當り見出しされる。平常この缺陷の一部分でもいふから何とかして補ひ度いと思つて居る著者はこの際その企ての一端を表はさんが爲に態と紀行に助して抱懐せる所説を披歴したものが本書であるこの意味に於て著者は淺薄なる思想をば飾るに閑文字を以てするが如き單なる月並の紀行と

日本及日本人本書を評して曰く

文學物として面白し

頗る趣味多き作である。

その軌を一にせざることを信じて疑はない。著者の渴仰せる新事物に對する知識慾と好奇心とを満足せしめる人々の一讀を冀ふも不當でないことを確信する。

◇小林一郎氏新著◇ (絶大の好評を博して増刊出來)◇

好評  
五版

# 芭蕉翁の一生

四六判最上製美本  
本箱入全壹册  
六百八拾頁  
金貳圓八拾錢  
送料十八錢

著者が多年敬仰愛慕の  
熱情遂に本書を成す

其の生前に於ても死後に於ても芭蕉翁の如くに多くの崇拜者をもつて居る人は今古の詩人文士中に曾て例の無いことである此の如き人の一生は何人も之を研究して見て大なる教訓を得べきものである著者は俳諧の専門家では無いが翁の作を愛誦すること既に三十年翁を識る上に於ても一種の自信をもつて居る隨て著者は此書を現代各階級の人に薦めて其の批判を得ることを熱望して居るのである。

目次

吾が師芭蕉翁	少時の芭蕉翁	正風の隆興	更科の月	後の行脚
寂しき中の力翁	の 遁世	辛崎の松	奥羽行脚	臨終の前後
胸裏の別天地	寛文前後の俳壇	古池の句	奥のほそ道翁と其の門弟	
忙しき時代翁	の 東下	鹿島の月見	三代榮華の跡	天才と努力
趣味の生活芭蕉	庵 施	野の行脚	幻住	庵 施
翁の時代	野ざらし紀行	芳野行脚		



◇小林一郎氏新著◇

—(再版亦々賣切三版出來)—

好評  
三版

奥の細道評釋

四六判最上製美本  
金壹冊壹百餘頁  
金壹圓參拾錢  
送料十二錢

旅を以て生命とせる芭蕉翁が奥羽から北陸に亘る半歳に餘れる旅日記なり之を讀む者は宛ら此の俳聖に伴ひて山水の間に放浪するの感嘆き能はず芭蕉の集山無二の名篇たるのみならず此の種の文としては東西古今一も比肩すべき者無し著者が芭蕉に對する渴仰の意は自ら此の註釋を成せり。未だ芭蕉を知らざる者も既に知る者も共に必ず一讀せざるべからず。

◇小林榮子女史考案◇

—(極彩色十數度刷・優美文宇石版刷)—

趣味俳句いろいろはかるた

特別最上製  
壹組箱入  
正價  
金壹圓八十錢  
送料拾八錢

自分の子を出來る丈立派に育て上たいと望まぬ親はありませぬ。立派に育て上るのには高尚な趣味を養はせるのが最も大切な條件です。日本は世界に類の少い趣味の國と言はれて居ます俳句は此の國民性を最もよく現はしたものです。私は古來の名句の中から殊に小さい人に適する様なものを撰み自分の子供に取せ居ました。今度之に繪を添へ皆さんに提供するのは皆さんが揃つて立派な人に成て下さるやうと願ふからですそれが皆さん自身の爲でもあり又御國の爲でもあると思ひます。

ドイロソフイエ 上田恭輔先生著 (類書は皆本書から取れるもの也)

好評  
三版

生殖器崇拜教の話

袖珍洋裝美本  
全壹冊百六拾餘頁  
正價金六拾錢  
送料二錢

本書は 當今大人氣の性慾問題を捉へて流行の風潮に乗せんとするキワ物では御座らぬ本書は紀州の南方は既に英譯あり佛譯あり生殖器崇拜問題を學術的組織的に研究したる本邦最初の試みである、敢て讀者の一讀をすむ。

東京市聯合青年團講師 浦谷甫水氏著

好評  
再版

徹底せる心の生活

四六判最上製美本  
全壹冊三百餘頁  
金壹圓八拾錢  
送料十二錢

國民として亦個人として思想の動搖●精神の不安實に今日ほど甚しきはなし、此時に際會せる青年少者の心事洵に同情寒心に堪へざるなり。本書は著者が體験自得せる自己の信念を極めて平易に吐露し以て彼等の精神に一道の光明を寄與し其の生活を意味深からしめんとせるもの。一言一句皆其の肺腑より出で痛切懇篤にして生氣潑刺たるは勿論徹底的精神的に人生を觀超然として悠々自適而もなほ能く眞面目に奮闘的氣分を高潮せる一大修養書也。



—數年の努力に成れる熱烈眞摯の研究—  
白石實三氏新著 ■ (地圖壹葉風景) (寫真數葉入)

# 忽三版 武藏野巡禮

四六最上製美本全壹册  
正 價 貳 圓 五 拾 錢  
送 料 十 二 錢

萩。薄。蟲聲。曠野。月光、四季を通じて武藏野は繪の如く詩の如し、武藏野を知り武藏野を愛し武藏野を慈しむに於て著者は現代第一人者である。本書は著者が巡禮探勝實に數年悉さに武藏野の自然を見人を見、兼て其處に生起する土地河川都市田園等の各社會問題を考察せる熱烈眞摯なる研究書也。文や清新豊麗一種獨特の新藝術品を完成し在來の紀行文の舊型を打破して別に史實に一新生面を拓けるもの新藝術品愛好者は勿論武藏野及郊外愛慕者は必ず本書を讀いて此の美玉の如き抒情詩を愛誦せられよ

## 内容目次の一

- 武藏野巡禮：薄の武藏野、淀橋ガスタング、奥澤の佛像、落葉林の美、癩病院
- ：木下川藥師、東武藏野の瞥見、曠野の望樓、狭山の丘の旅、高麗王の碑
- 西武藏野：鎌倉街道、多摩川の渡頭、武藏野の花と新緑、近郊の散策、武藏野
- の夜をゆく、故國の山水、高原の異國人街、栗橋の水樓、關東平野横斷、國分
- 寺の合營、北武藏野の町々、外數十項

早稻田大學教授内ヶ崎作三郎序  
早稻田大學講師吉田絃二郎著  
四六判最上製美本全壹册  
紙數五百卅頁箱入  
正 價 金 貳 圓 五 拾 錢  
郵 稅 八 錢

# タゴールの哲學と文藝

## 好評甚 激 忽 九 版

オイケンベルグソンの西洋哲學に對して尙ほ慥らざる所を覺ゆるの士は必  
ず我印度の大思想家大詩人タゴールに來らざるべからず。彼の思想は印  
度思想の絶頂に達し彼の敬處な生活は聖フランシスの如く彼の純眞な文藝  
の杯は處女的な優しきと縁幻爛蕩の蕪りに満つ。本書は彼れの哲學・文藝・  
詩の殆んど全體を網羅し彼を批評し紹介せんとするもの書中納むる所「生  
の實現」「園丁」「新月」「チトラ」「郵便局」「暗室の王」「ギタンヂヤリ」の  
主なる詩及殆んど全譯に等しき劇の梗概をも收め且つタゴールの評傳及彼  
の實生活をも掲げたればタゴール研究者の一權威たるを失はず我が現代人  
を以て任ずるの士は一日も速に外人をして「今後はタゴールの時代なり」と  
まで驚嘆せしめし彼の全集とも稱すべき本書を繕かざるべからず。

東京 神田 表神保町七  
大 同 館 發 行

—(タゴール紹介書中の權威・識者の一讀を希ふ)—







●●大近松の時代淨瑠璃傑作選集出づ!!●●

●小林榮子女史校訂● (四六判最上製美本 金五圓五拾錢 送料金廿四錢)

# 最新刊 近松傑作時代淨瑠璃集成

近松遊いて既に二百餘年世に其の天才を讃嘆する者益々多きを加ふるは偶然にあらず就中其時代淨瑠璃は趣向の雄大描寫の鮮麗なる文章の雅建なる後世作者の到底企て及ばざる所なり。今其中に於て殊に傑作と稱すべきものを精選し用語には一々適當なる漢字宛故事には一々正確なる考證を加へ曩に世話淨瑠璃の校正に費したるに數倍する精力を傾けて本書を成せり。苟くも近松の眞面目を知らんとする人は必ず一本を手にはせざるべからず

## 内容目次

出世景清	百合若大臣野守鏡	日本振袖始	雙生隈田川
釋迦如來誕生會	吉野都女楠	會我會稽山	傾城反魂香
百日會我	娘山姥	傾城酒吞童子	室町千疊敷
最明寺百人上臈	孕常盤	本朝三國詩	信州川中島合戰
雪女五枚羽子板	國姓爺合戰	平家女護島	關八州聚馬

東京市神田表神保町  
大館藏版

## 大同館發行圖書目錄

◇二島章道氏著◇ (感想 自信ある紀行選集)

# 最新刊 若き泉

四六判最上製美本  
紙數三百餘頁箱入  
金壹圓八拾錢  
送料十二錢

この書は私が折にふれて書きためた感想・紀行・對話等をあつめたものです。この書は随分雑駁なものです。がそれだけ多方面に色々の文が集められてゐるわけです。私の藝術や演劇論などを愛して下さる方には又この本も愛して下さることを思ひます。この書は浅い幼稚な思想からたゞしくも生れでた貧しいものですが全體にわたつて若々しい氣持だけはみなぎつてゐると思ひます。そしてこの書を一貫して流れてゐる或る氣持を愛せる方は愛して下さるでせう。それで題も「若き泉」としたのです。——(著者)——

## 目次

紀行三題：佛國ランス紀行：大磯の或る夕邊：若き旅のすまび：感想と雜：眼の印象：印象のうちより：故國に歸りて：日本の女：若き聲と人眞似：温情と言ふこと：冠を被つた筆跡：或手紙をよみて：生活の興味慰安をきかれて エスベラント前案者の年忌に際して：劇藝術について：口を出るまゝの劇：藝術所感：幼き日の紀念に：幼き芽：雜感：ある對話：年若き友へ：二つと變愛對話：老人と青年の對話：夢の遊話



鈴木善太郎氏新著

四六版最上製  
美本五百頁

金貳圓五拾錢

送料金  
十二錢

小説 暗 示

〔三田文學批評〕：特異なる材料を捉へて以て人生の頂點を描けるもの乃ち氏が藝術獨特の境地に於てこれ詩人にして同時に科學の奉仕者たる氏が常にその試に成功を克ち得たる所以なり。本書はその傑作約二十編の小説を輯めたるものにして代表的選集を以て目すべきものなり。嚴なる科學の上に培はれたる想像が如何に怪しく美しく花咲けるか讀む者をして強く魅し去るを覺えたる。文壇の珍重すべき收穫として敢て文藝愛好の人士に一本をすすむ。……と  
の大好評を博しつゝある。

（著者曰く）わたくしは生涯の殿堂を築く爲めの一枚の瓦として本書を出版し未知の讀者に尊敬と熱愛との中にこれを贈るのである。人生の旅路への新しい出發としてたとへ其効果が價値のないものであつたとしてもそれはわたくしに取て希望や光榮や法悦を感ずべき人生の夜明であつた。生涯の記録の中の最も感謝すべき記念塔である。

- 内容目次
- 人生の扉をあけて
  - ある樞模の手紙
  - 金時計と銀時計
  - 支那の怪
  - 暗の兵卒
  - 彼の支丹
  - 切支丹の祭日の出來事
  - 婦人傍聴席
  - ヒステリイの話
  - 通信中の發見者
  - 通信員モリス
  - 忘川の祈り
  - 二百八十九
  - 喇嘛副平の客

津田光造氏新著

（山本鼎畫伯裝釘）

新刊 長篇 大地の呻吟

四六版最上美本  
全壹冊四百餘頁  
金壹圓八拾錢  
送料十二錢

著者が心血を濺ぎて成り

世のブルジョアの誰でもが持つて居る様なそして持ちたが  
つて居る様な名譽とか人格とか財産とか地位とか乃至は虚  
榮とか云ふものを吉岡信三は持つて居たのであつたが階級

し堂々五百枚の大著作

的で不平等な社會の現狀に絶えず不満を持つて居た彼は遂に自由の無い職業から解放されようとして妻  
を失ひ子供と別れた。彼はその孤獨と悲哀とから免れようとして様々な屈辱と苦みとを経験したが結局  
彼は財産の私有と空虚な各譽心とを無くしてしまふより外に途がなかつた。そしてそこに彼の人格の一  
大破産が來た。

三浦修吾氏新著

（著者が好んで執筆せし文集）

忽三版 感想 林檎の味

四六判最上美本  
金壹圓八拾錢  
送料十二錢

災難病苦あらゆる人生の苦難を経て終に人間内在の偉大なる力を把握し得たる著者の生活史思想史に機  
り込まれたる觀察である紀行文あり隨筆あり感想あり著者の卒直なる氣風は本書においてのみうかゞひ  
知らる。



◇瀧本二郎氏新著◇

—(國家及人類の爲に警醒を促す)—

# 三版

## 社會勞働問題と産兒制限論

四六判最上製  
美本全壹册  
正壹圓八十錢  
送料十二錢

新マルサス主義は創唱せられたれども未だ完全に批判せる書は出ず本書は著者が専攻の社會勞働問題のこれが根本的解決は産兒制限による外なしとの見地より歐米に親しく留學して英・米・佛・獨・露等諸國の勞働状態を精査してその所信の正否を檢討研究力説せるものなり。内容は大家族制の惡弊と産兒制限の社會政策解決と産兒制限：人類解放實現と産兒制限：人道と産兒制限：基督教と産兒制限：民族自滅論と産兒制限：世界平和實現と産兒制限：英米に於けるマルサス主義：等熱血なる著者の筆は自覺ある現代青年者有識者には必ずや何らかの暗示と啓發とを與ふるであらう。

◇江幡龜壽氏新著◇

—(生物界の研究は近來白熱的に盛なり)—

# 三版

## 増訂教育的生物學

四六判最上製  
美本全壹册  
正金貳圓  
送料十二錢

生物學は地球生物群の成立發育の因由茲に其法則を明かにせんとする學である此の學に依らずんば人間の真相人生の歸趣を知るを得ず本書は著者が専攻の生物學を教育的見地より平易に講述せるものにして實に現代必讀の書なり。

(目次の一斑)：生存慾の具體的表現：原始生活より智的生活へ：生物學的國家觀：死と永生：遺傳と人生：生の闘争と人口論：生命の繼：人類の運命觀：生物學上より觀たる人間作成の力：人間の發育と教育：青年女性の研究：婦人改造論と生物學的批判：社會問題と生物學の意義

早稻田大學講師 本間久雄氏新著 (第三版)

# 現代の思潮及文學

(四六判最上製美本  
全壹册四百餘頁)

正價金貳圓參拾錢

送料金十二錢

## 現代の民衆生活の立場から解説批評せし文化問題二十講出づ

の人々にも充分興味ある暗示と啓發とを與へるであらう。

吾々の生活をよりよくし、より豊富にするには如何にすべきか——。かういふ實生活的要求を根柢として多種多様な混沌として歸趨するところなき近代並に現代の思潮及文學中より最も重要な二十種の問題を因へてそれを檢校し解説し批評し講述したのが本書である。而も著者は飽くまでも謙虚な心と穩健平明な文章とを以てしてゐるから新生活の要望者にはもとより一般

### 大 同 館 發 行 圖 書 目 録

#### 目 次

- 第一章 社會改造運動と當來の文藝：第二章 民衆藝術の意義及價值：第三章 ウイリアム・モオリスの民衆藝術論：第四章 徳川時代に於ける民衆藝術の勃興：第五章 解法の詩人：第六章 人生派の批評と藝術派の批評：第七章 藝術の社會的價值：第八章 ボサンケ氏の美學：第九章 グライプ・ベル氏の戦いと藝術：第十章 國家主義と世界主義：第十一章 二つの愛國心：第十二章 現代とジャナーリズムの意義：第十三章 二種の平和論：第十四章 性的道德の新傾向：第十五章 現代婦人と世界的不安：以下略す

座口金貯替振  
番貳七八八東

大 同 館 發 行

區田神市京東  
七町保神表



◆一條忠衛著◆ —(諸種の婦人問題産兒制限問題を論述)—

**男女の性より觀たる社會問題**

四六判最上製美本  
正價金壹圓八十錢  
送料十 二 錢

社會問題と云へば専ら經濟上の問題になつて居る。けれども人間の經濟生活と云ふものは男女の性によ來した現象である。人生に男女の性と云ふ事實がある故にその男女の性の社會を維持する爲めに經濟生活が生じ随つて其處に諸種の社會問題が起きて來るのである。故に男女の性より社會問題を觀ることは社會問題解決の根本的研究である本書の著者は特に倫理學者として之を性の倫理より考察して社會問題研究の新方法を創始したのである。是れ本書の一大特色であつて他に比類なきを誇る所以である。

◇一條忠衛著◇ —(男女問題を解決する一大光明)—

**好一五版 男女道德論**

四六判最上製美本  
金貳圓五拾錢  
送料十二錢

人生の歴史は男女の歴史である一切事件は男女を背景としてゐる。本書は第一章 緒論…第二章 男女道德の論理學的的地位…第三章 男女自覺…第四章 男女同權…第五章 男女兩本位…第六章 戀愛…第七章 結婚…第八章 離婚…第九章 獨身…第十章 醜態の處分…第十一章 結論…よりなり興味ある問題を捕へて分析解剖し高遠なる理想に照して之を批判せる書也。  
【男女問題講話貳圓五十錢】と共に大歡迎を博せるものなり

東京帝國大學文學部助教授文學士 植松 安著 —(類書中の白眉)—

**七 版 古事記新釋**

四六判最上製美本  
全一册五百餘頁  
正價貳圓五拾錢  
送料十八錢

著者はこの古事記を説くに當つて神代の卷に最も力を注いだ事を一言して置く索引については單語の解説を見出し得るのみならず古事記本文の事項を採り得るから目錄の代用となる。●難解なる古文を最も平易なる假名交り文に書下し振假名を附し詳細なる語義と其索引を添ふ。著者が國民心理を基礎として神代と上古との風俗人情に下したる評論的文章は各段章に顯はれて大和民族發展の由來を明にし國民歸嚮の中心を説く是れ本書の特長なり。今や大戦後世界思想の急激なる變動は將に我國民族思想に及ばんとす世界の日本東洋の日本我等の日本これの事に得よ。

東京帝國大學文學部助教授文學士 植松安新著 (四六判最上製美本全貳册) (紙數壹千參百餘頁箱入)

**再 版 註 釋 假名の日本書紀**

(上卷)  
金參圓五拾錢  
(下卷)  
金參圓八拾錢  
送料各廿四錢

日本書紀の一體に假名日本書紀といふものゝ存する事は從來一部の學者に知られて居たが未だ普く其存在を知る人が少い。本書は著者が出來るだけの手を盡して調べ得た廿餘種の異本を参照して著述したものである。内容は本文を漢字交りに書下し漢字に振假名を附し假名に漢字を當て一段毎に前明たる註解を加へ索引として辨すべき詳細なる目錄を添ふ。我國體の淵源を知り國民性の本質を明かにせる正確なる國史を最も平易に讀み得る書である。學者政治、教育家神職を初め其他何人も是非一讀すべき書である。

發兌 東京市神田區 大同館書店  
表神保町七







◇文學博士波多野精一序  
早稻田大學教授内ヶ崎作三郎序

野村隈畔著(四六判最上製美本 金貳圓五拾錢 送料金十八錢)

### 版八

## ベルグソンと現代思潮

本書はベルグソンと現代思潮との關係を説いて極めて詳密である即ち一卷の現代思想評論と見ることが出来る。内容はベルグソンの思想を中心として現代の哲學及生活の梗概を述べたものであるだけに獨りベルグソン哲學の特色と價值とを學び得るのみならず弘く哲學的思想を解する上に於ても亦尠なからざる價值がある文章は一度之を手には知らず識らずの間に讀了せしむる魔力ある文體に依つたので感興殊に深い。近來絶無の良書として江湖に一讀をすゝめる——(六合雜誌評)——

◇松山高等學校教授 三並良譯著 (菊判最上製 金貳圓五拾錢 送料金十八錢)

東京神田表神保町七  
大館發行

### 版七

## オイケン 人生の意義と價值

舊世界觀は倒たりと雖も新世界觀は未だ確立せず、思想界は紛亂し人間はその歸趣に迷はんとす。是れ實に現代の煩悶にして精神界一切の病源なり。オイケン博士が獨特の見地より此大問題の解決を試みたるものを本書とす。由來博士の所説は難解なりとの評ありと雖も本書の如きは決して然らず。博士も亦常に本書を最も平易の叙述と稱せり。そして博士と親交ある譯者が最新第五版によれる譯筆も亦た平明流暢なり。オイケン哲學の眞髓を知り人生問題を解かんとする者は之を繙かざるを得ず。……

美本全壹册 金貳圓五拾錢 送料金十八錢

◇市川一郎氏新著◇ (最も初學者に適する入門書)

### 版三

## 最新認識論講義

本書は認識の根本問題に關する過去現在の學說を眞に何人にも理解し得るよう巧妙簡明に講述せるものなり。一度本書を讀く時は哲學的論理的思索に無理解なる人士も將又既刊類書の難解に絶望せる人士も易々として眞理探求の眞方法を會得するの歡喜を味ひ得るや疑なし篤學の士の愛讀を待つや切なり。

四六判洋裝 正價金 壹圓 五拾錢 送料四錢

◇市川一郎氏新著◇ (現代教育者必讀の要書)

### 版三

## 教育の基礎たる社會學

本書は米國碩學の近著に係る應用社會學の一なる教育的社會學に據て社會學の主要なる原理と此原理に立脚する教育說の社會學的解釋とを講述せるものである。過去の因襲教育が心理學に依て改造せられたるが如く、行き詰れる現代の教育は是非社會學に依て改造されなければならぬ。實に本書の説く廣大にして根本的なる教育說は狹隘なる天地に踏踰せる今日の教育を廣潤清朗なる曠野に誘導するものである愛國の士の必讀を要請す。(文部省は勅令を以て社會教育課を新設す)

四六判最上製全壹册四百餘頁箱入 正價 金貳圓 送料十一錢

大 同 館 發 行 圖 書 目 錄



東京帝國大學文學部教授 文學博士 吉田熊次序 市川一郎譯著

# 教育の基礎たる哲學

## 第九版

常識と科學との部分的な人生觀及教育觀を排して哲學的即ち全體的人生觀及教育觀を與へ、以て我教育家をして明晰なる思想の所有者たらしむること之の本書の使命なりとす。明晰なる思想の所有は、驚きと喜びを以て爲さしむるは多言を費さずして明かなるべし。原書は米國最近の名著譯文亦平易簡明、哲學的素養の皆無なる人士と雖も易々として現代哲學の概觀を捉提し健全なる哲學的的人生觀及教育觀を樹立し得、以て從來と全く異りたる意義あり價值ある新生命を開拓し得んこと疑なし。江湖の必讀を要望して止まざる所以なり。

緒論 第一章科學の目的範圍方法……(科學の目的——科學の範圍——科學の方法——哲學の範圍——哲學と人生との關係)……第二章哲學の目的範圍並に方法……(哲學の目的——哲學の範圍——哲學の方法——哲學と人生との關係)……第三章科學と哲學との一般的關係……第四章哲學と教育との關係……(教育の哲學的方面——教育の形而上學的方面——教育の認識論的方面——教育學說の倫理的方面——宗教哲學の教育的意義——教育學說の美學的意義——教育學說の倫理的方面——宗教唯理論の倫理的意義——(教育の目的及手段——教育目的としての自我實現——理想と實際教育との關係——教師と授業——結論二)——

四六版最上製紙  
全五約數  
錢拾五圓貳金  
錢二十金料送

文學博士 富士川 游 一序 文學士 朝日融溪氏新著

## 五版

### 親鸞聖人の出現と思想

四六版最上製  
美本全壹册  
價正壹圓八拾錢  
送料十二錢

歴史は時代々々の偉人と稱へらるゝ非凡人の記録であつた。彼等は自己を以て世を化せんとしてゐた。或は政權によつて或は軍權によつて或は金權によつてさうして互に交噬し相排擠し血みどろになつて喘いでゐる吾人はつくづく非凡人文化に愛想が盡きた。嫉妬・排擠而して自己宣傳もう見るも聞くも嫌だ一日も早く凡人文化の建設に急がなくてはならぬ早ければ早いだけ眞の平和は早く來るのだ而してこの凡人文化の歸結は我が親鸞聖人の思想によつて完しといつてよいのである。

渡部政盛氏新著 (青年教育の慰安書)

## 新刊

### 異端者の悲しみと歡び

四六版最上製  
美本全壹册  
正價金貳圓  
送料十二錢

異端者の悲しみと歡び日本書は此の獨學者の孤獨者異端者が卅年の思想及生活を記録し叙傳したものである。家庭の逆境と身體的缺陷とは早くも彼れを孤獨に導いた彼は孤獨ながらに伸びた。彼は學校歴と云ふものをば有たない檢定難と異端者の不取扱の中に變則的に其の自我を實現した而も彼は今日教育思想界學術界の一大野梁として社會的に認識せらる。沈痛なる「異端者獨學者の悲しみと歡び」が青年の胸に孤獨の貴さと人間性の偉大と多大の慰安光明とを與へずにはおかないであらう。

振替 貯金 口座  
東京 七八七 番

大 同 館 發 行

東京市神田區  
表神保町七



◇福田正夫・井上康文氏共著◇ 袖珍最上製 金壹圓貳拾錢 送料金 十二錢

# 忽七版 童謡・民謡詩の作り方

この書は單なるつくり方ではない。著者が詩壇に於ける永い間の體驗によつて生まれた實際的良書である。北原白秋・西條八十・白鳥省吾・野口雨情諸氏の評論を引用して童謡のつくり方を説明し民謡抒情小曲に至るまで詳細をつくり殊に詩に於ては福田氏が博く深く日本の詩壇全體に亘つて作例をあげて説明す。三木露風・北原白秋・室生犀星・富田碎花・百田宗治諸氏の作の解剖的説明等恰も一大詩篇を讀むが如きである。しかもやさしい親切な詩のつくり方の絶好書である。

福田正夫共著 ● 童謡・民謡詩傑作選集全 正價壹圓五十錢 送料十二錢

井上康文著 ● 童謡・民謡詩傑作選集全 正價壹圓五十錢 送料十二錢

奈良女子高等師範學校訓導 ● 兒童童謡選集 銀の笛 全 正價壹圓五拾錢 送料十二錢

河野伊三郎著 ● 兒童童謡選集 銀の笛 全 正價壹圓五拾錢 送料十二錢

黒川延平著 ● 童謡こんこん小雪 全 正價壹圓五拾錢 送料十二錢

岡山女子師範學校訓導 ● 全國傑作童謡一千選全 正價壹圓八十錢 送料十二錢

奥山橋太郎編著 ● 全國傑作童謡一千選全 正價壹圓八十錢 送料十二錢

東京市神田區 大田同館發行 表神保町七

◆渡部政盛氏新著◆ 菊判最上製美本箱入 紙數七百餘頁全壹冊 金五圓八拾錢 送料金 廿四錢

# 三版 集說 批判 教育學概論

- ▲教育概念の批判的本質的闡明
- ▲教育基礎論なる新研究項目の特設
- ▲教育學概念の科學的哲學的論明
- ▲教授訓練二方便説の徹底的主張
- ▲新教育學體系の模範的確立
- ▲最近教育思潮の批判的攝取

本書内容は(一)歴史批判(二)事實批判(三)現代思潮批判(四)目的々本質的批判に立脚して最眞最善の教育原理を闡明し實際教育に對して最も根本的なる最も嶄新なる規範を提供したのである。教育一般を研究の對象として科學に立脚しながら哲學を忘れず、教育の意義・教育學の概念を諸方面から縱横に考察論明し特に理論的教育學の新體系を確立し教育原理の基礎論として詳細なる被教育者論及社會人生論を試み目的概念としての文化的人格の形式内容を精説し教授訓練の二方便説に隨つて方法論を二分的に説述し最後に独自の見地から教育動力論(教育者論)を試み機關論をなした。系統的てふ形容の意味は本書に於てのみ味ふことが出来やうかと思ふ。本書は眞に集說的にして批判的である。教育學研究者文檢受験者學校圖書館の必備及清鑑を俟つ所以なり。【執筆六個年で定成せる苦心の名著】

東京市神田區 大田同館發行 表神保町七



文學士 小林 一郎 先生 新著

# 第三版 自由の生活

四六判 最上製 紙五百五十頁  
正 價 貳圓五拾錢  
送 料 金 十 貳 錢

思想界の混亂は實に未曾有である。吾等は此間に處して如何に吾等の活路を開いて行くべきであるか今は徒に樂觀するを許さぬ又徒に悲觀すべきで無い。之を過去の経過に徴し現在の情勢に照して今後の立場を確と定めなければならぬ著者は此の見地から日本の文明の過去及現在に對して自由なる批評を試みた。現代に處して意義ある生活を爲さんとする人々の一讀を勧める殊に靑人の人々と靑年の指導の任に在る人々は必ず精讀すべきである。

## 目 次

萬事は是からである：誰が責任を負ふのか：國は自分のものである：武士と百姓町人：忠義を誰に盡すべきか：倭寇と海外貿易：町人の意氣抱負：自ら重んずるの心：徳川氏三百年：事無から主義：鎖國の二百年：幸運に抑れてはならぬ：尊王攘夷：皮相なる西洋文明觀：近世文明の特色：貧乏性：自ら侮れば人之を侮る：日本は劣等の人種か：百年の歴史と信仰：功利主義の繁昌：自由平等論の勃興：自治とは何であるか：世界の眼：百年の後

原田 實氏 新著 (人間の力と光との活動を勵す)

# 第三版 人間への教育

四六判 最上製 美本 六百頁  
正 價 金 貳圓五拾錢  
送 料 十 二 錢

世界は人間の心を忘れ人間の姿を見失つて居る。家庭からも學校からも社會からも人間の力と光とが消え失せてゐる。思へば、價値の顛倒を力説して靈魂の貧民を睥睨した哲人の心と自然に歸れと絶叫して外形の奴隷を叱咤した革命家の心とが慕はしい。私は切に人間の心と思ひ人間の姿を想はざるを得ない。この思慕と志向とが本書を書かせたと云へる。私は私達の家庭と學校と社會とは今や「人間への教育」を深く考へて見なければならぬ一大危局に立つて居るといふことをつくぐと思ふ者である(自序の一節)

志垣 寛氏 新著 (靑年教育者必讀の要書)

# 新刊 弱きもの、上に (師範生のところ)

四六判 最上製 美本 四百頁  
正 價 金 貳圓  
送 料 十 二 錢

弱きもの、上にに惹まれた様々な虐げと呪いと脅迫のどん底に悩みながら乍らも尙且つ其の清く美しくい心を失はなかつた一師範生の雄々しい人生の記録を見よ。藝術と教育の葛藤 照辣・論槍・利己・嫉妬・欺瞞とあらゆる險惡のすがたにむせ返る師範教育の現状はわが新人の深刻なる描寫によつて遺憾なく暴露された。



◇奈良女子高等師範學校訓導 櫻井祐男氏新著

# 忽五版 生を教育に求めて

—(四六判最上製美本 金貳圓八拾錢 送料十二錢)—

東京神田 大岡館藏版

著者曰く私はよほどの直撃と激震をもつてこの書を私の同伴の士たる天下無量の青年教育家諸君に捧げたいと思ふ。主人公飲一は人生の寂寥さに悶えながらも尙ほ己が生の尊貴と優越に深き固き信據と信念を有ち教育を以て己が人生——生活と思料し其生活的顯現の爲に日夜の赤誠を致さうとしてゐる。而かもそこに總てを捨て、總てを獲ようとする矛盾撞著のたゞ中に仁王立ちに奮激してゐる彼が性格の強さ弱さが思はれるであらう。その強さ弱さから来る彼が生の懊惱と約略は解決は解決のまゝに未解決は未解決のまゝに必ずや讀者諸君の人生の上に何等かの示唆と感奮を齎すであらう——ことを疑はない。

内容目次一斑 (一)唯一途に吾れを愛すが故に……(二)紅き血と高き鼓動と……(三)「教育即生活」と信念するまで……(四)天の慈光地の靈濕……(五)雛を有つ母鷄を慕ひて……(六)子供よ、總ての絆を解いて平明に……(七)哀れ子供の靴……(八)産盆ふ如き慈雨……(九)骸の出動を厭ひて……(一〇)疲れても尙ほ輝かしき遠足……(一一)生れざるもの悲哀……(一二)梧桐の蔭に立ちて……(一三)總てがない生活——美……(一四)温かに柔和に自然に……(一五)「先生太鼓の音が聞えます」……(一六)唯悲壯と流る——尺八の音……(一七)唯一日を休ふ……(一八)啼かざる鶯……(一九)總ての制縛に堪へて……(二〇)奈良に來て唯一の財寶……(二一)徹いものは嬉しう。その生は震へてゐる……(二二)同志よ來れ語らうに……(二三)同職の士よ何を見ん。

大岡館發行圖書目錄

「變態心理」主幹 文學士 中村古峽氏新著

## 第七版 變態心理の研究

—(四六判最上製美本全壹冊五百頁 正價貳圓五拾錢 送料十二錢)—

本書は、變態心理學に造詣深く、且つ催眠實技に於て、殆んど入神の技能を有せる著者が、催眠現象を初め、潜在精神▽二重人格▽幽霊の出現▽狐狸の憑依

**我學界隨一の新著** 等、諸種の變態心理現象を飽くまで、學術的且つ通俗的に説明したる、我學術界唯一の新著にして、特に世上の山師が、心靈を名として、諸種の瞞著手段を行へることを素破抜きたる一章は、最も痛快を極む。著者は更に、多年の實驗中より、精神治療の實例十數種を詳細に報告し、就中二重人格者の施術法及夢の新實驗等は、全く著者の創意に屬す。教育家、宗教家、醫師、法曹家は勿論、一般家庭の父兄諸氏の必讀を望む。



著者の尤も自信ある創新作文集

# 第拾四版

# 生命の微光

早稻田大學講師 吉田絃二郎氏新著

四六判最上製美本  
全壹册總數五百頁

正價金貳圓

郵税金十二錢

「力は孤獨から生れる」この人生の見方は非常に淋しい。けれど  
も涙ぐまれるほど懐しい生活の力を私に與へた。兄弟を捨てて友を  
捨てるにゆるる人々を捨て、我れた一人、人生の悠久な寂寞と運  
命の廣野に孤獨の影を見出した時、私達の哲人生活の第一歩が始  
まるのである。孤獨の影から光りな絶望の底から光りが生れ愛なき  
嫌人の臆病な心の底から温かい人間愛が生れるのである。愛なき  
か。私は此心弱いの生活者の收穫の中から創作五篇と卅餘篇の感想  
を纏めることにした。暗の底に低徊せる孤獨者のいのちの微光を  
求むるかな祈りの聲として(著者)

## (内容目次)

- 孤獨者の心……罪人の涙……啄木鳥……旅から旅へ……
- 淡紅のチウルフ……孤島の春に……やなぎの芽生……
- 夜の汽車……馬關海峡で……或る朝……大學正門前……
- 寒い日であつた……この秋……八丈島に行つた女……
- 武蔵野の秋……母の愛……秋雨の日……三十の彼……暗
- と悲哀とから……ロシヤへ行かんとする青年に……曇り
- 日……大地は呻けり……

謀叛人の死母

蜆人し

されど生くべ

東京市神田 大同館發行 表神保町七



503  
120



終